

ProcessX Web  
**システム管理マニュアル**  
Ver.2

## ProcessX Web システム管理マニュアル 改訂履歴

2016 年 02 月 01 日	Ver.2.0.0 版として作成
2016 年 07 月 01 日	Ver.2.0.1 版として作成
2016 年 08 月 25 日	Ver.2.0.2 版として作成
2019 年 07 月 17 日	Ver.2.0.4 版として作成

このマニュアル内容に関するお問い合わせ先

株式会社 ジェイシエル プロダクト部

〒101-0032

東京都千代田区岩本町 3-11-8 イワモチョウビル

TEL 03-5822-2243

<http://www.yu-jcl.co.jp/pxw>

サイト内にお問い合わせフォームがあります。

# 目次

1	システム概要	1
1.1	システム要件	1
1.1.1	サーバマシン	1
1.1.2	クライアント PC	2
1.1.3	ネットワーク	2
1.2	システム構成	3
1.3	用語	4
2	インストール	6
2.1	初回インストール	6
2.2	プログラム更新	6
3	管理画面の操作	7
3.1	起動とログイン	7
3.2	ユーザ管理	8
3.3	グループ管理	12
3.4	プロジェクト管理	14
3.5	ライセンス情報	19
3.6	メールサーバ設定	20
3.7	セッション管理	22
3.8	ユーザログイン URL の確認	23
3.9	データベース接続情報の設定	23
4	ライセンス	24
4.1	ライセンスの概要	24
4.2	ライセンスの取得	24
4.3	ライセンスの設定	25
4.4	サポート契約	26
5	サーバの設定	27
5.1	ProcessX Web 本体の設定	27
5.2	Java アップデートの抑制	29
5.3	電源オプションの設定	30
5.4	PostgreSQL の設定	31
5.5	ファイアウォール設定	36
5.5.1	ファイアウォールの新規設定	36
5.5.2	ファイアウォール設定の確認と変更	36
5.6	PostgreSQL のバックアップ	39
5.6.1	手動バックアップ	39
5.6.2	自動バックアップの設定	40
5.6.3	自動バックアップの復元	41

6	ProcessX Web のアンインストール .....	43
6.1.1	ProcessX Web 本体のアンインストール .....	43
6.1.2	PostgreSQL のアンインストール .....	44
7	ProcessX Web のプログラムの更新 .....	46
8	困ったときには .....	47
8.1	ProcessX Web サーバ .....	47
8.1.1	管理画面へログインできない .....	47
8.1.2	ライセンスが設定されない .....	47
8.1.3	登録ユーザ数が上限に達した .....	47
8.1.4	データのインポート／エクスポートでエラーが発生する .....	47
8.1.5	データのバックアップをとりたい .....	48
8.1.6	データを他の ProcessX Web サーバへ移動したい .....	48
8.1.7	他のサーバからインポートしたプロジェクトのアクセスパターン .....	48
8.1.8	管理画面の起動のショートカットがほしい .....	49
8.2	ProcessX Web クライアント .....	49
8.2.1	Web ブラウザでログイン画面が表示されない .....	49
8.2.2	Web ブラウザのログイン画面でエラーが表示される .....	49
8.2.3	クライアント PC からログインできない .....	49
8.2.4	ログインできているようだが画面が表示されない .....	49
8.2.5	同時接続数が上限に達した .....	50
8.2.6	ログインしたまま放置していたら、ログアウトして操作できなくなった .....	50
8.2.7	ProcessX Web 本体の更新を行ったら、操作できなくなった .....	50
8.2.8	ジョブ一覧リストの表示件数が増えたら動作が重くなる .....	50
8.2.9	Excel 帳票や Excel レポートを表示しようとするとエラーになる .....	51

# 1 システム概要

## 1.1 システム要件

ProcessX Web を導入して使用するためには、サーバマシン(1 台)、クライアント PC(ユーザ台数分)、およびサーバマシンとクライアント PC 間を接続するネットワークが必要になります。

なお、サーバマシンとクライアント PC を、1 台の PC で構成して使用することも可能です。

### 1.1.1 サーバマシン

#### (1) Windows OS

以下の Windows OS に関して、動作検証済みです。(32 ビット版、64 ビット版)

- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008
- Windows Server 2008 R2
- Windows 7
- Windows 8
- Windows 10

#### (2) メモリ

4GB 以上を推奨します。

クライアントの同時起動数に応じて増設が必要になります。

#### (3) ハードディスク

インストール時に 1GB 以上の空き領域が必要です。

格納するデータ量に応じて、データ保存のための空き領域が必要です。

#### (4) データベース

以下のデータベースが自動的にインストールされます。

- PostgreSQL 9.4.4

#### (5) ソフトウェア

ProcessX Web セットアップ時に、以下のソフトウェアのインストールを行います。

- Apache Tomcat 8
- Java 8
- ProcessX Web 本体
- ProcessX Web 管理画面

### 1.1.2 クライアント PC

#### (1) OS

要件に適合する Web ブラウザを起動できる OS であること。

#### (2) メモリ、ハードディスク

要件に適合する Web ブラウザを快適に実行できること。

#### (3) Web ブラウザ

Windows の以下の Web ブラウザに関して、動作検証済みです。

- ・ Firefox 43 以降
- ・ Google Chrome 47 以降
- ・ Windows Internet Explorer 11

Mac、Linux 上での Web ブラウザに関しては、お問合せください。

Web ブラウザの種類により、操作性や表示速度などが大きく異なる場合があります。

特に、Windows Internet Explorer 11 では、ジョブ一覧リストのジョブ数が増えると、表示速度が極端に低下します。

Web ブラウザのバージョンアップにより表示速度が改善される場合もありますが、ジョブ一覧リストの操作性を重視する場合、現状では、Windows Internet Explorer 11 以外のブラウザを推奨します。

### 1.1.3 ネットワーク

#### (1) LAN 環境のとき

サーバとクライアントの間で、適正なネットワーク速度を備えること。

ネットワーク速度が遅いときは、操作性が低下する場合があります。

#### (2) WAN を経由するとき

VPN を使用して、サーバとクライアントの間を接続できること。

ネットワーク速度が遅いときは、操作性が低下する場合があります。

※ サーバマシンとクライアント PC を、1 台の PC で構成して使用することも可能です。

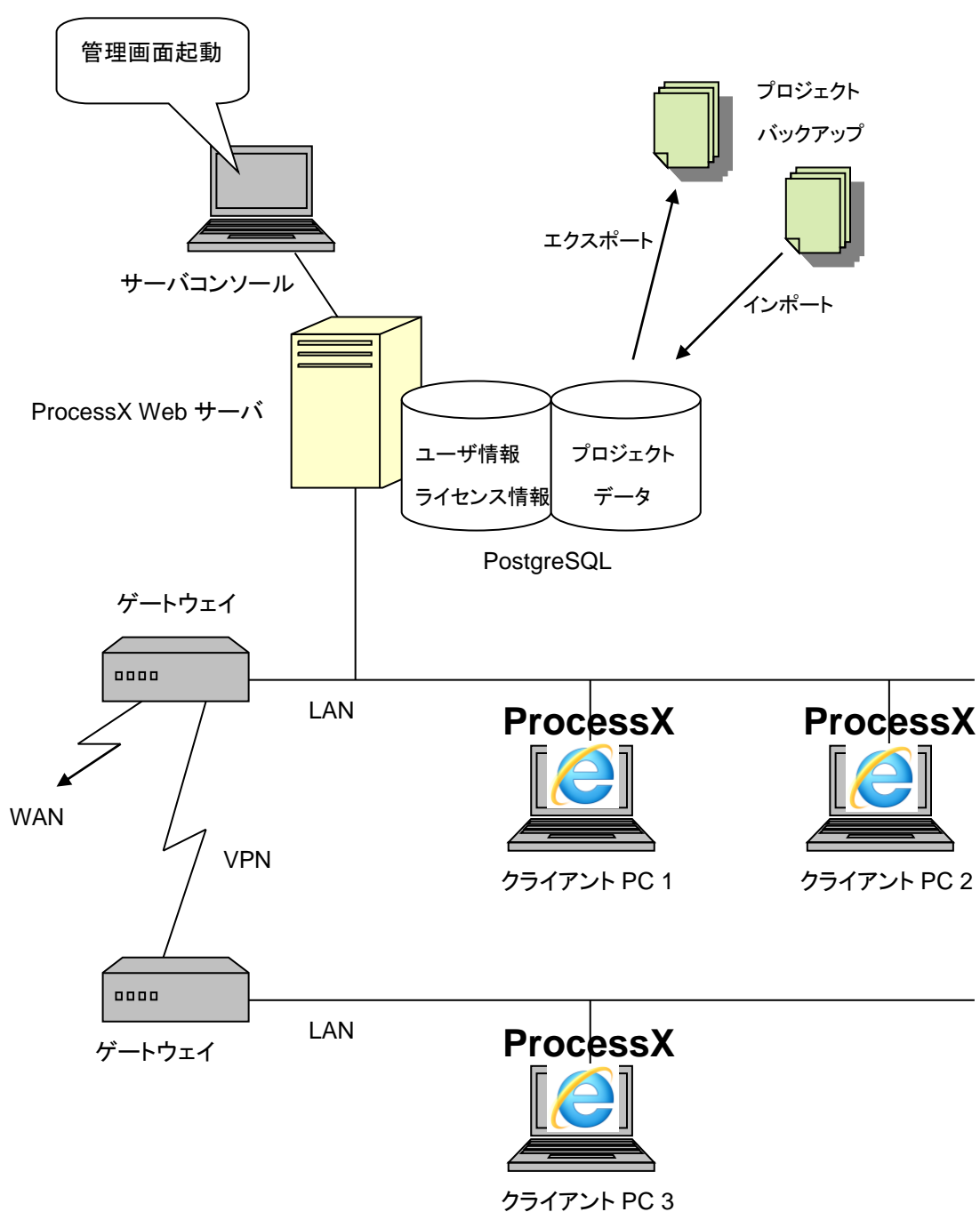
この場合は、物理的なネットワークを経由する必要はありません。

## 1.2 システム構成

以下の図で、ProcessX Web のシステム構成例を示します。

1 台の ProcessX Web サーバ上に、ProcessX Web 本体プログラムとデータベースが構築されます。管理者は、ProcessX Web サーバ上で管理画面を起動し、データ管理やユーザ管理などを行います。

ユーザが ProcessX を利用するときは、クライアント PC 上で Web ブラウザを起動し、ProcessX Web サーバにログインします。



## 1.3 用語

### (1) サーバマシン

ProcessX Web 本体プログラム、およびデータベースをインストールするマシンです。  
ハードウェアは、専用のサーバ機、デスクトップ PC、ノート PC など、いずれでも動作します。  
用途とパフォーマンスにより選択してください。  
なお、サーバマシンとクライアント PC を、1 台の PC で構成して使用することも可能です。

### (2) クライアント PC

ユーザが Web ブラウザを立ち上げ、ProcessX Web にログインする PC です。  
要件に適合した Web ブラウザを起動できることが条件であり、ProcessX Web のための特別なソフトウェアのインストールは不要です。  
なお、サーバマシンとクライアント PC を、1 台の PC で構成して使用することも可能です。

### (3) ProcessX Web 本体プログラム

ProcessX Web 本体プログラムはサーバマシン内にインストールされ、常時起動されます。  
サーバマシンを再起動した場合も、ProcessX Web 本体プログラムは自動的にサービス開始します。

### (4) PostgreSQL

サーバマシンにインストールするオープンソースのデータベースソフトウェアです。  
ProcessX Web のデータを保持します。

### (5) Java

ProcessX Web 本体プログラムが動作するために必要なソフトウェアです。  
サーバマシンにインストールします。

### (6) Apache Tomcat

ProcessX Web 本体プログラムが動作するために必要なソフトウェアです。  
サーバマシンにインストールします。

### (7) ファイアウォール

ネットワークを経由して外部からの侵入を受けないようにサーバマシンをガードする、Windows に搭載されているソフトウェアです。  
クライアント PC から ProcessX Web へログインできるように設定を行います。

### (8) プロジェクト

業務毎に作成・保存される ProcessX Web データの呼称です。  
プロジェクトの作成と運用は、以下のような流れになります。

- ・ プロジェクトは、システム管理者が管理画面上で作成します。



このとき、このプロジェクトのプロジェクト管理者を任命します。

- ・ プロジェクト管理者がクライアント PC からプロジェクトへログインし、プロジェクトのデータ構成を作成し、プロジェクトへ参加できる一般ユーザを定義します。
- ・ プロジェクトのユーザは、クライアント PC からプロジェクトへログインし、プロジェクトデータの作成、編集、データ活用を行います。

#### (9) 管理画面

ProcessX Web のユーザ管理、ライセンス管理、プロジェクト管理を行うための管理プログラムです。

サーバマシン上で起動し、システム管理者のみが操作します。

ProcessX Web の管理や設定変更の必要がある場合のみに起動し、通常時は本プログラムを起動させる必要はありません。

#### (10) システム管理者

ProcessX Web の管理画面にログインできる権限を持つユーザです。

一般ユーザのうち、システム管理権限を与えられたユーザです。

システム管理者は、管理画面の「ユーザ管理」機能で設定します。

なお、ProcessX Web のインストール時に指定したシステム管理者は「第 1 管理者」と呼ばれ、ユーザ削除することはできません。

#### (11) プロジェクト管理者

一般ユーザのうち、そのプロジェクトを構成したり編集したりする権限を持つユーザです。

システム管理者が、プロジェクト毎に一般ユーザの中から任命します。

管理画面の「プロジェクト管理」機能で設定します。

#### (12) ユーザ

一般ユーザのことであり、クライアント PC から Web ブラウザを起動し、ProcessX Web にログインし、参加権限のあるプロジェクトにアクセスして操作します。

プロジェクトに参加できるユーザは、プロジェクト管理者がクライアント PC から対象プロジェクトへログインし、「プロジェクト設定」機能で設定します。

## 2 インストール

### 2.1 初回インストール

ProcessX Web を使用するためには、サーバマシンにデータベース (PostgreSQL) と ProcessX Web 本体プログラムの両方をセットアップする必要があります。

ProcessX Web 本体プログラムと最新版の PostgreSQL が同梱されている簡単インストーラを使用し、手間のかかるインストールを、ボタン 1 回のクリックで行います。

別冊の「簡単インストール手順」をご参照ください。

### 2.2 プログラム更新

ProcessX Web の本体プログラムまたは管理画面のバージョンアップに伴い、プログラム更新を行うときに実施します。

ProcessX Web のサイトから更新プログラムのインストーラをダウンロードし、セットアップを起動すると自動的に更新されます。

別冊の「更新インストール手順」をご参照ください。

## 3 管理画面の操作

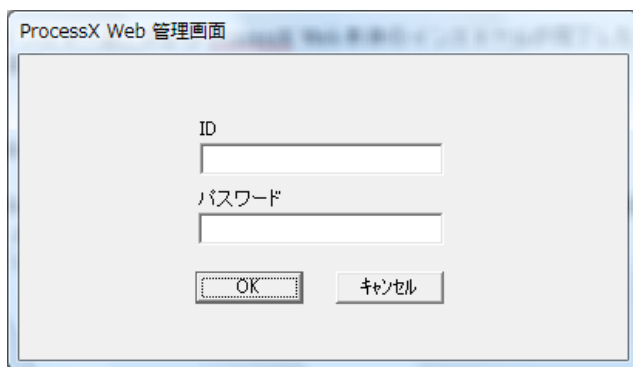
### 3.1 起動とログイン

ProcessX Web 管理画面は、ProcessX Web の各種の管理や設定を行います。  
必要なときのみ起動するものであり、通常時は起動しておく必要はありません。

ProcessX Web 本体をインストールしたサーバ上で、ProcessX Web 管理画面を起動します。

「スタートメニュー」→「ProcessX Web」→「ProcessX Web 管理画面」  
を指定してください。

起動すると、以下のログイン画面が現れます。



ProcessX Web 管理画面

ID

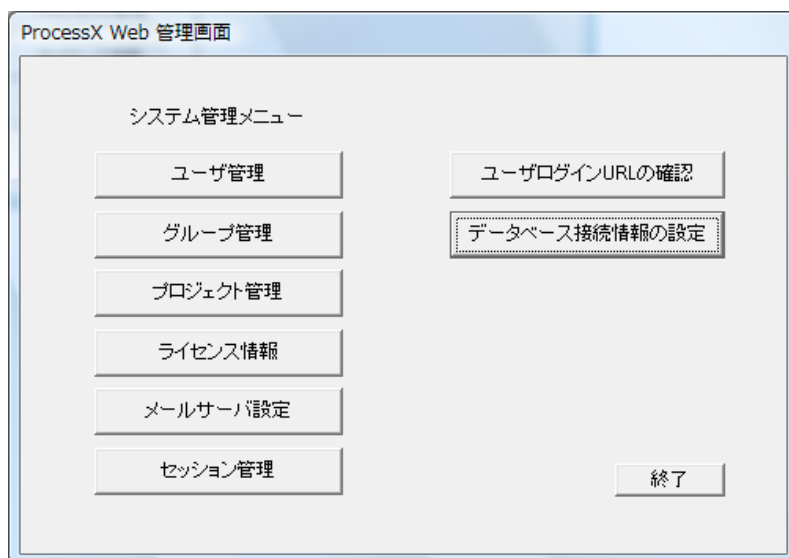
パスワード

OK キャンセル

ProcessX Web 管理画面にログインできるのは、登録されたユーザのうち、「システム管理者」の権限が与えられたユーザです。

ユーザの ID とパスワードを入力して「OK」ボタンを押します。

ログインすると、以下のメインメニューの画面が現れます。



ProcessX Web 管理画面

システム管理メニュー

ユーザ管理	ユーザログインURLの確認
グループ管理	データベース接続情報の設定
プロジェクト管理	
ライセンス情報	
メールサーバ設定	
セッション管理	終了

## 3.2 ユーザ管理

メインメニューで「ユーザ管理」を選択すると、次のダイアログが現れます。

ProcessX Web へログインするユーザを管理します。

[illegible]

### (1) ユーザの追加

「ユーザ追加」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。

ユーザ追加・編集

ログイン名(半角英数)

パスワード

パスワード(確認用)

名前

グループ

会社名

部署名

役職

TEL

FAX

メールアドレス

メモ

ステータス

☐ システム管理者とする

会社名編集

部署名編集

OK

キャンセル

追加するユーザの情報を入力します。

項目	内容
ログイン名	ログイン名を半角英数で入力します。(必須入力) 既存ユーザのログイン名と重複することはできません。
パスワード	パスワードを半角英数で入力します。(6文字以上)(必須入力) 使用できる文字は、数字、アルファベット(大文字、小文字)、ハイフン、ピリオドです。
名前	名前を入力します。
グループ	所属するグループを選択します。 グループの情報は、「グループ管理」メニューで編集します。
会社名	所属する会社名を選択します。 会社名情報は、「会社名編集」ボタンで編集します。
部署名	所属する部署名を選択します。 部署情報は、「部署名編集」ボタンで編集します。
役職	役職を入力します。
TEL	電話番号を入力します。
FAX	電話番号を入力します。
メールアドレス	メールアドレスを入力します。
メモ	メモを入力します。
ステータス	このユーザの「有効」または「無効」を選択します。
システム管理者とする	チェックされているとき、システム管理者として管理画面にログイン できます。

必要な情報を入力し、「OK」ボタンを押すと、新しいユーザが追加されます。

なお、登録できるユーザ数は、ライセンスにより上限が設定されています。

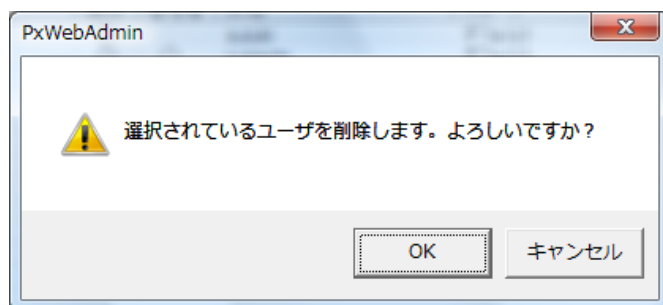
上限を超える場合は、それ以上のユーザの追加はできません。

## (2) ユーザの編集

ユーザー一覧リストで1行選択し、「ユーザ編集」ボタンを押すと、指定したユーザの情報を編集できます。  
編集できる内容は「ユーザ追加」の場合と同様です。

(3) ユーザの削除

ユーザー一覧リストで 1 行選択し、「ユーザ削除」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。  
「OK」ボタンを押すと、指定したユーザを削除します。



(4) 表示順の変更

一覧リストで 1 行選択し、「▲上へ」または「▼下へ」ボタンを押すと、指定行のリスト内の表示位置をそれぞれ 1 行上または 1 行下へ移動します。

(5) 閉じる

「閉じる」ボタンを押すと、ダイアログを閉じてメインメニューへ戻ります。

(6) CSV インポート

CSV ファイルからユーザ情報を読み込み、複数ユーザを一括で登録します。

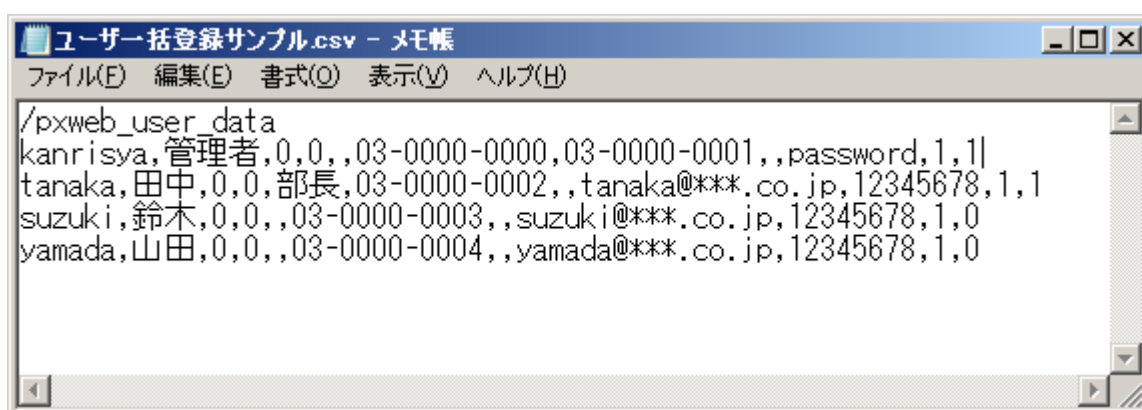
CSV ファイルの最初の 1 行には「/pxweb\_user\_data」と入力してください。

登録するユーザデータは 2 行目から記述します。

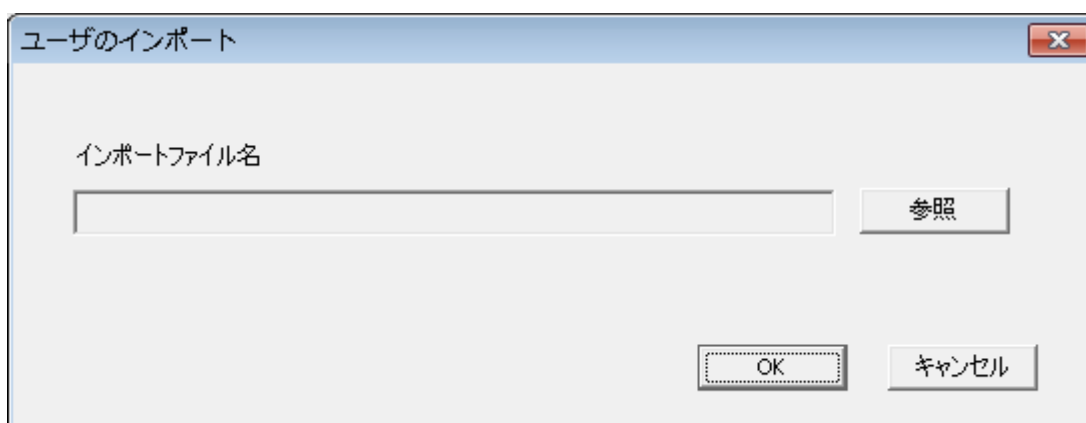
登録するユーザデータの項目は以下の順番でカンマ(,)区切りで記述します。

No.	項目	内容
1	ユーザ ID	ユーザ ID を設定します。(必須入力)
2	ユーザ名	ユーザ名を設定します。
3	会社コード	会社コードを設定します。
4	部課コード	部課コードを設定します。
5	役職	役職を設定します。
6	電話番号	電話番号を設定します。
7	FAX	FAX 番号を設定します。
8	E-mail	E-mail アドレスを設定します。
9	パスワード	パスワードを設定します。(必須入力)
10	所属グループ ID	所属グループ ID を設定します。(必須入力)
11	有効フラグ	有効フラグを設定します(0:無効、1:有効)。(必須入力)

CSV 取り込みファイルのサンプルが ProcessX Web のインストールフォルダに配置されています。



「CSV インポート」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。



「参照」を押して取り込む CSV ファイルを選択します。

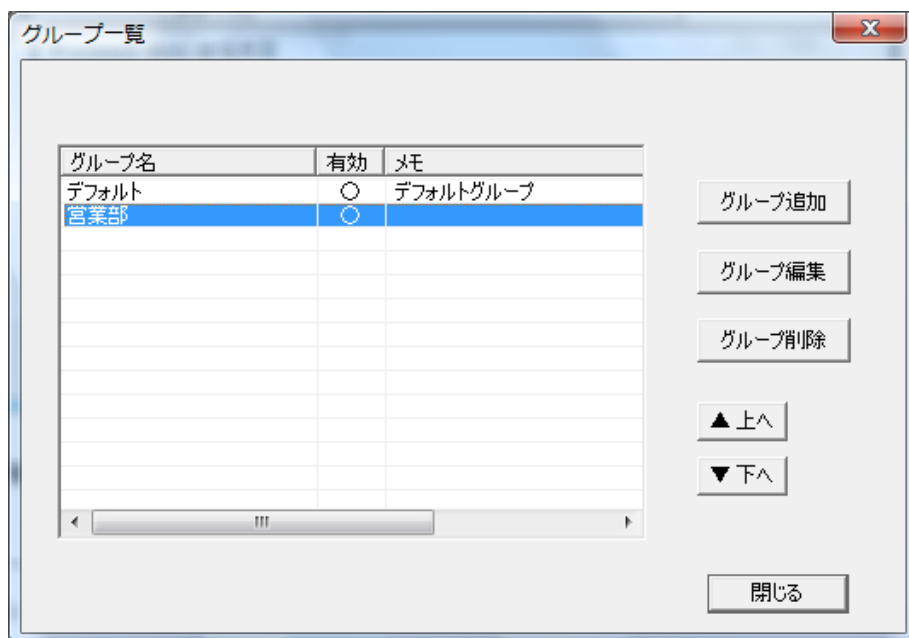
「OK」ボタンを押すとインポート処理が開始されます。

取り込み CSV ファイルが配置されている場所にログファイルが出力されます。

※ ログファイルの出力先に書き込み権限がない場合など、ログファイルが出力できないときは、エラーとなります。

### 3.3 グループ管理

メインメニューで「グループ管理」を選択すると、次のダイアログが現れます。  
ユーザ情報に与えるグループ情報を管理します。



#### (1) グループの追加

「グループ追加」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。

追加するグループの情報を入力します。

項目	内容
グループ名	グループ名を入力します。(必須入力) 既存のグループ名と重複することはできません。
ステータス	このグループの「有効」または「無効」を選択します。
メモ	メモを入力します。



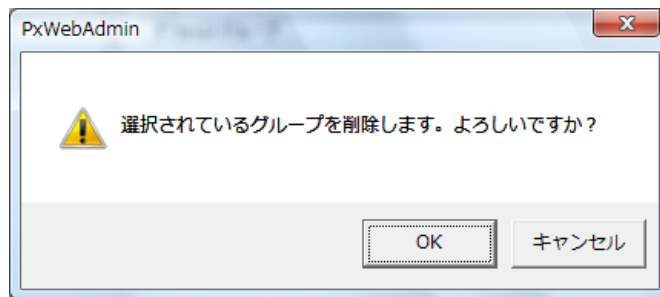
(2) グループの編集

グループ一覧リストで 1 行選択し、「グループ編集」ボタンを押すと、指定したグループの情報を編集できます。

編集できる内容は「グループ追加」の場合と同様です。

(3) グループの削除

グループ一覧リストで 1 行選択し、「グループ削除」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。



「OK」ボタンを押すと、指定したグループを削除します。

なお、「デフォルトグループ」は、最初から用意されているグループであり、削除することはできません。

(4) 表示順の変更

一覧リストで 1 行選択し、「▲上へ」または「▼下へ」ボタンを押すと、指定行のリスト内の表示位置をそれぞれ 1 行上または 1 行下へ移動します。

(5) 閉じる

「閉じる」ボタンを押すと、ダイアログを閉じてメインメニューへ戻ります。

### 3.4 プロジェクト管理

メインメニューで「プロジェクト管理」を選択すると、次のダイアログが現れます。  
データベースのプロジェクトを管理します。

[illegible]

(1) 新規プロジェクト

「新規プロジェクト」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。

プロジェクト追加・編集

プロジェクト名

メモ

ステータス 有効 ▼

全てのグループ ▼

プロジェクト管理者

登録されているユーザ

iwamoto  
suzuki

←  
追加

削除

OK

キャンセル

新規作成するプロジェクトの情報を入力します。

項目	内容
プロジェクト名	プロジェクト名を入力します。(必須入力) 既存のプロジェクト名と重複することはできません。
メモ	メモを入力します。
ステータス	このプロジェクトの「有効」または「無効」を選択します。
プロジェクト管理者	このプロジェクトのプロジェクト管理者の一覧です。(必須入力) 複数設定できます。
追加	右側のユーザリストから選択し、「追加」ボタンを押すと、プロジェクト管理者リストに追加することができます。
削除	左側のプロジェクト管理者から選択し、「削除」ボタンを押すと、プロジェクト管理者リストから削除することができます。

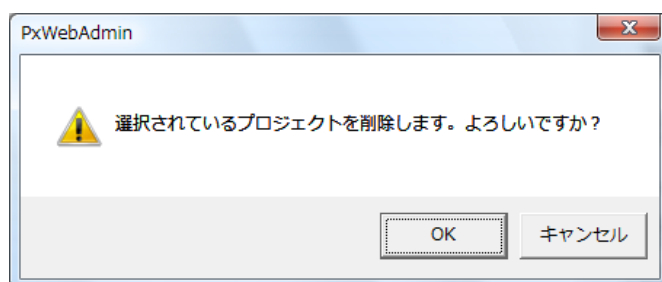
## (2) プロジェクトの編集

プロジェクト一覧リストで1行選択し、「プロジェクト編集」ボタンを押すと、指定したプロジェクトの情報を編集できます。

編集できる内容は「新規プロジェクト」の場合と同様です。

## (3) プロジェクトの削除

プロジェクト一覧リストで1行選択し、「プロジェクト削除」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。



「OK」ボタンを押すと、指定したプロジェクトを削除します。

## (4) エクスポート

エクスポート機能は、指定したプロジェクトデータを、指定ファイル名のファイルへバックアップします。プロジェクト単位のデータバックアップとして使用できます。

エクスポートしたバックアップデータは、インポート機能を指定して、ProcessX Web データベースへリストアすることができます。

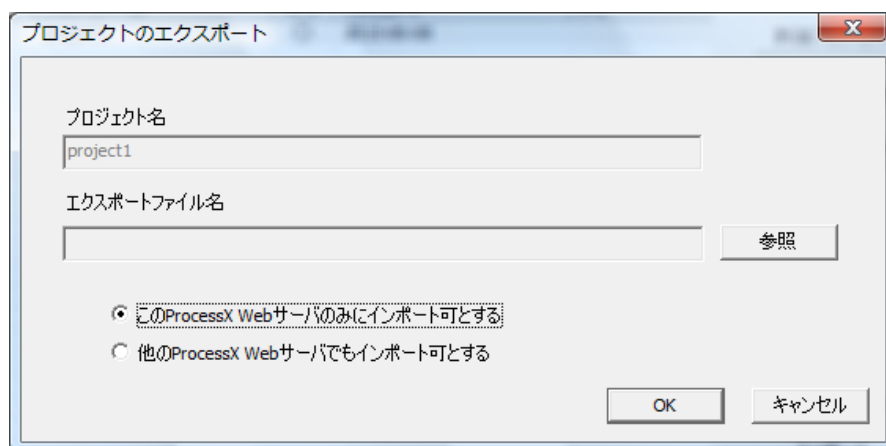
エクスポートするとき、以下のいずれかのモードを指定します。

- ・ この ProcessX Web サーバのみにインポート可とする

エクスポートしたデータは、このサーバにのみインポートできます。  
データファイルを持ち出し、他のサーバに復元することはできません。  
データのセキュリティを確保することができます。

- ・ 他の ProcessX Web サーバでもインポート可とする  
エクスポートしたデータは、他のサーバでも復元することができます。  
別部署のシステムへプロジェクト移動するときなどに有効です。

プロジェクト一覧リストで 1 行選択し、「エクスポート」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。

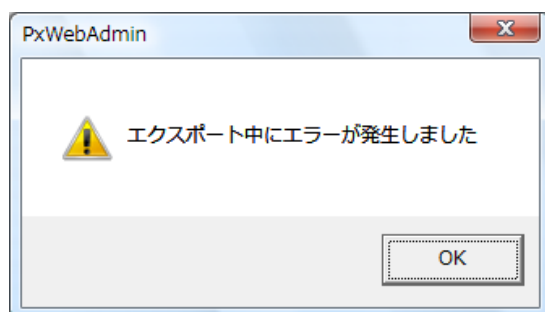


「プロジェクト名」には、エクスポートするプロジェクト名が表示されます。  
「エクスポートファイル名」には、「参照」ボタンを押して現れるファイル選択ダイアログで指定したバックアップファイル名が表示されます。

「OK」ボタンを押すと、指定したファイル名でバックアップファイルが生成されます。

「エクスポート」ボタンを押して、しばらくして以下のダイアログが現れるときは、PostgreSQL のサービスにデータベースアクセスの権限設定が不足している可能性があります。

「8.1.4 データのインポート／エクスポートでエラーが発生する」の項を参照して対処してください。



## (5) インポート

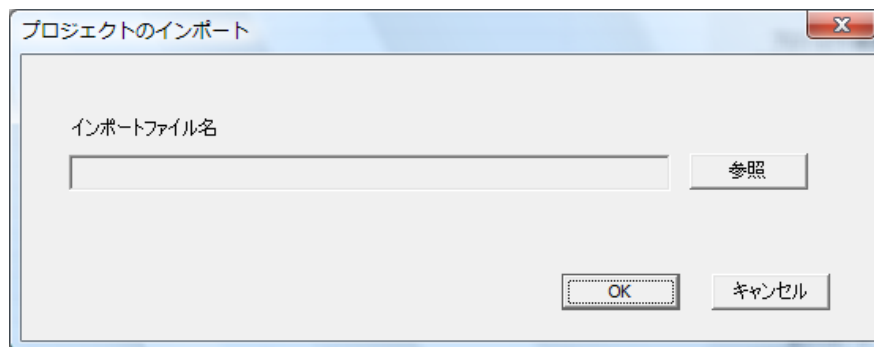
インポート機能は、エクスポートしたバックアップファイルを、ProcessX Web データベースへリストアしま

す。

エクスポート時に指定したモードにより、インポートの動作が異なります。

- ・ 「この ProcessX Web サーバのみにインポート可とする」で作成されたファイルのとき  
このサーバでエクスポートしたファイルのみ復元できます。
- ・ 「他の ProcessX Web サーバでもインポート可とする」で作成されたファイルのとき  
他のサーバでエクスポートしたファイルでも復元できます。

「インポート」ボタンを押すと、次のダイアログが現れます。

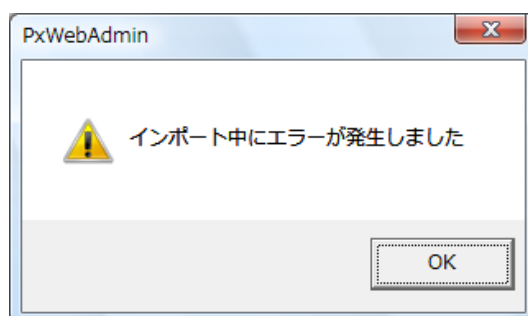


「インポートファイル名」には、「参照」ボタンを押して現れるファイル選択ダイアログで指定したバックアップファイル名が表示されます。

「OK」ボタンを押すと、指定したバックアップファイルからプロジェクトをインポートします。

「インポート」ボタンを押して、しばらくして以下のダイアログが現れるときは、PostgreSQL のサービスにデータベースアクセスの権限設定が不足している可能性があります。

「8.1.4 データのインポート／エクスポートでエラーが発生する」の項を参照して対処してください。



他の ProcessX Web システムでバックアップされたプロジェクトをインポートするときは、以下の点に留意してください。

- ① プロジェクトをインポートした後、「プロジェクト編集」機能で、このプロジェクトのプロジェクト管理者を任命してください。

- ② プロジェクト管理者は、クライアント PC の Web ブラウザから、このプロジェクトにログインして、このプロジェクトにログインできるユーザを定義してください。
- ③ 他の ProcessX Web システムからインポートしたプロジェクトは、ユーザ情報、グループ情報が異なるために、データのアクセスパターンを元システムと同じ状態に再現することはできません。

このプロジェクトに定義されているアクセスパターンには、一律に、「デフォルトグループ」に対して参照・更新が可能な権限が付与されます。

プロジェクト管理者は、必要に応じて、アクセスパターンを編集してください。

#### (6) 表示順の変更

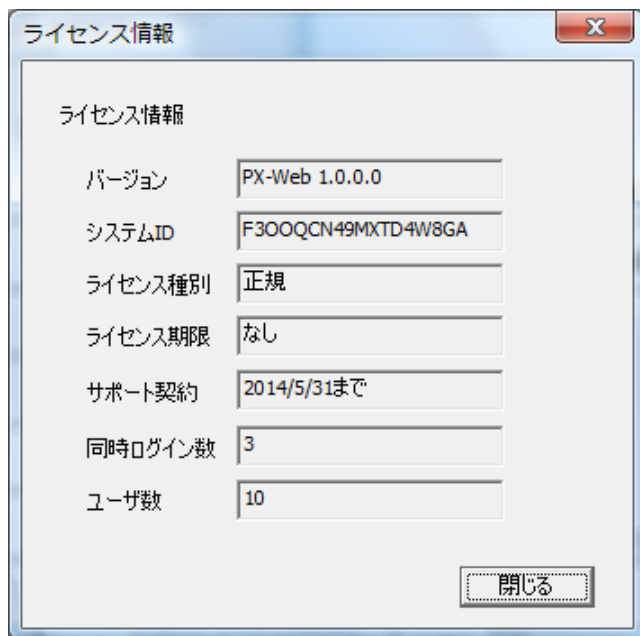
一覧リストで 1 行選択し、「▲上へ」または「▼下へ」ボタンを押すと、指定行のリスト内の表示位置をそれぞれ 1 行上または 1 行下へ移動します。

#### (7) 閉じる

「閉じる」ボタンを押すと、ダイアログを閉じてメインメニューへ戻ります。

### 3.5 ライセンス情報

メインメニューで「ライセンス情報」を選択すると、次のダイアログが現れます。



ライセンス情報

バージョン PX-Web 1.0.0.0

システムID F30OQCN49MXTD4W8GA

ライセンス種別 正規

ライセンス期限 なし

サポート契約 2014/5/31まで

同時ログイン数 3

ユーザ数 10

閉じる

表示される内容は、以下の通りです。

項目	内容
バージョン	ProcessX Web のバージョンが表示されます。
システム ID	この ProcessX Web のシステム ID が表示されます。 ライセンス発行の際には、このシステム ID が必要です。
ライセンス種別	ライセンス種別(正規、試用版、無効)が表示されます。
ライセンス期限	期限付きライセンスのとき、ライセンス期限が表示されます。
サポート契約	サポート契約ありのときは、契約期限が表示されます。
同時ログイン数	ライセンスの同時ログイン数が表示されます。
ユーザ数	ライセンスのユーザ数が表示されます。

ライセンス情報の詳細については、「4. ライセンス」の項をご参照ください。

## 3.6 メールサーバ設定

メインメニューで「メールサーバ設定」を選択すると、次のダイアログが現れます。  
メッセージ送信機能で使われるメールサーバの情報を設定します。

メール送信設定

SMTPサーバ

メールアドレス

☐ メール送信時に認証が必要な場合

ポート番号

ユーザ名

パスワード

☐ SSL

☐ POP before SMTPの場合

POPサーバ

ポート番号

POP3ユーザ名

POP3パスワード

テストメール送信

設定する内容は、以下の通りです。

項目	内容
SMTP サーバ	メール送信に使用する SMTP サーバを設定します。
メールアドレス	ProcessX Web がメール送信するときの、メールアドレスを設定します。
メール送信時に認証が必要な場合	使用するメールサーバが、メール送信時に認証を要求する場合にチェックし、以下の追加情報を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ポート番号</li><li>・ユーザ名</li><li>・パスワード</li></ul>
SSL	SSL 送信する場合にチェックします。
POP Before SMTP の場合	使用するメールサーバが、POP Before SMTP を要求する場合にチェックし、以下の追加情報を設定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・POP サーバ</li><li>・ポート番号</li><li>・POP3 ユーザ名</li></ul>



	・POP3 パスワード
テストメール送信	ボタンを押すと、テストメールを送信します。

「OK」ボタンを押すと、設定内容を確定してメインメニューへ戻ります。

「キャンセル」ボタンを押すと、設定内容を破棄してメインメニューへ戻ります。

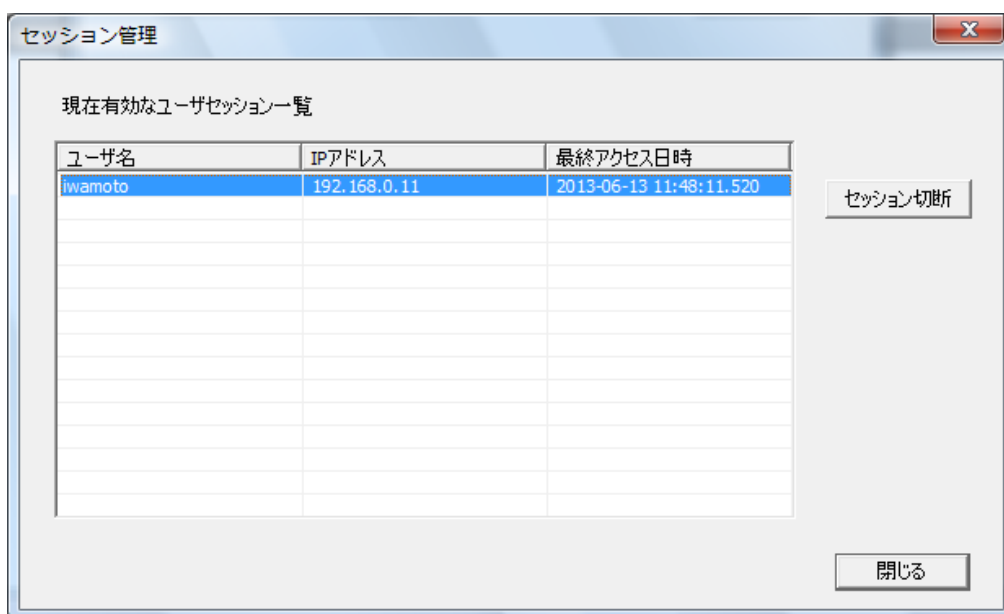
## 3.7 セッション管理

メインメニューで「セッション管理」を選択すると、次のダイアログが現れます。

一覧リストには、現在有効なユーザセッション(接続中のユーザリスト)が表示されます。

強制キャンセルしたいセッションを選択し、「セッション切断」ボタンを押すと、指定したセッションを切断することができます。

この機能は、実際に有効に動作しているセッションについても強制キャンセルすることができるので、注意深く操作してください。



ProcessX Web では、同時ログインできるセッションの数は、ライセンスの同時接続数として上限が設けられています。

ユーザがクライアントPC から ProcessX Web サーバへログインしているとき、サーバ側ではログインユーザ数を管理しています。

ユーザがログアウトするとセッションが切断されたと認識します。

ログアウトしないで Web ブラウザを終了させた場合も、ブラウザの終了を感知してセッションが切断されたと認識します。

正常なログアウトが行われないうち、その後 60 分間、サーバへのアクセスがない場合には、セッションが自動的に切断されます。

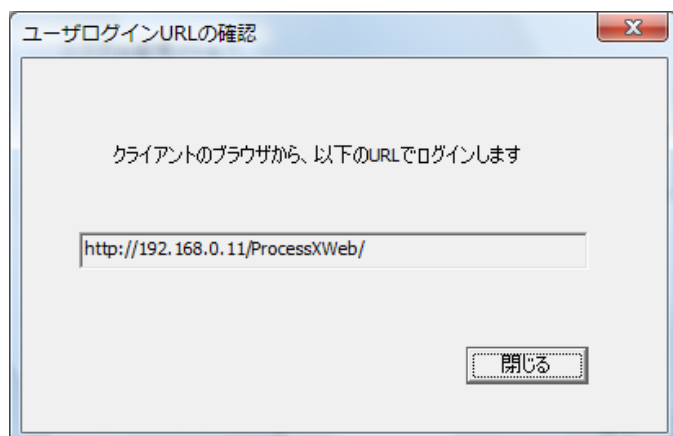
ライセンスの同時接続数の上限に達して、新たなログインに支障が出る場合には、正常ログアウトされていないセッションを強制的にキャンセルすることができます。

### 3.8 ユーザログイン URL の確認

メインメニューで「ユーザログイン URL の確認」を選択すると、次のダイアログが現れます。

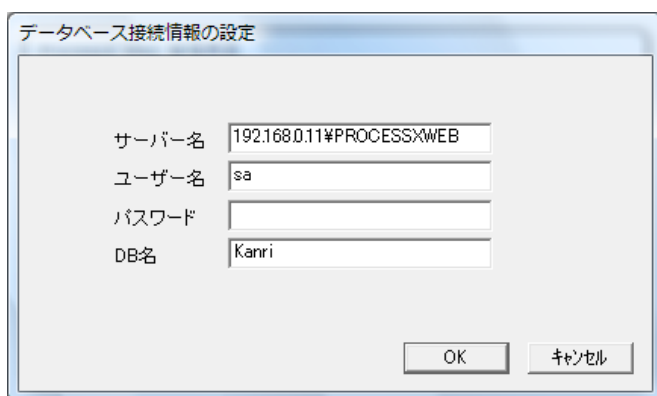
ユーザが、クライアント PC から、この ProcessX Web サーバへログインするための URL を表示します。

※ ポート番号が 80 のときは、IP アドレスの後ろのポート番号は省略されます。



### 3.9 データベース接続情報の設定

メインメニューで「データベース接続情報の設定」を選択すると、次のダイアログが現れます。



データベース接続情報は、ProcessX の初期設定のときに入力したパラメータが表示されます。

データベース接続情報は変更できません。

## 4 ライセンス

### 4.1 ライセンスの概要

ProcessX Web は、ライセンスの設定がない状態で、3ヶ月間、無償で試用することができます。

試用版は、利用できるユーザ数に制限があります。

継続して利用する場合、利用するユーザ数を増やす場合は、ライセンスの購入をお願いいたします。

ProcessX Web のライセンスには、次の種類があります。

- ・ 試用ライセンス
- ・ 正規ライセンス
- ・ テンポラリライセンス

#### (1) 試用ライセンス

ProcessX Web を新規にインストールすると、ライセンス設定なしで、すぐに無償で利用することができます。

ただし、試用ライセンスのときは、次の制限があります。

- ・ 試用できる期間は3ヶ月です。  
試用期間を過ぎた場合は、正規ライセンスを申し込むことにより、そのまま継続して利用することができます。
- ・ 利用可能なユーザ数は3です。
- ・ 他の ProcessX Web サーバとの間でのプロジェクトデータのインポート／エクスポートはできません。

#### (2) 正規ライセンス

正規ライセンスを取得していただき、ライセンス設定することで、ユーザ数を増やして期限なしで利用することができます。

- ・ 基本的にライセンス期限はありません。
- ・ 契約ライセンスの内容により、利用可能なユーザ数が異なります。

#### (3) テンポラリライセンス

一時的に、特殊な条件で使用する必要があるときに発行する期限付きのライセンスです。

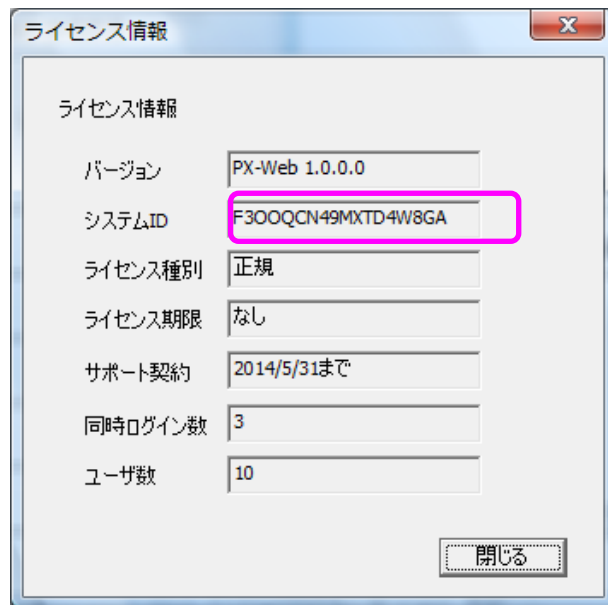
弊社営業またはサポートへお問合せください。

### 4.2 ライセンスの取得

ProcessX Web の正規ライセンスは、以下の手順で取得します。

(1) システム ID の確認

管理画面から「ライセンス情報」ボタンを押下して、ライセンス情報ダイアログを呼び出してください。  
システム ID の文字列(18 文字)を、マウスカーソルを使ってコピーしてください。



(2) ライセンス取得申請

ProcessX Web サイトの「ライセンス」ページへ進んでください。

<http://www.yu-jcl.co.jp/pxw2/license.html>

お問合せフォームを起動して、前項で取得したシステム ID の文字列を貼り付け、その他の必要な情報を入力してメール送信してください。

不明点があれば、弊社営業またはサポートへお問合せください。

## 4.3 ライセンスの設定

ProcessX Web の正規ライセンスを取得した場合は、ライセンスファイル(ファイル名 pxwl.nut)が電子メール等で送られてきます。

入手したライセンスファイルを、サーバ内の以下のフォルダ内にコピーすると、正規ライセンスがインストールされます。

フォルダ上に同じ名前のファイルが存在しているときは、上書きを行ってください。

32ビット OS のサーバとき

C:¥Program Files¥ProcessX Web¥pxwl

64 ビット OS のサーバとき

C:¥Program Files (X86)¥ProcessX Web¥pxwl

ライセンスファイルをコピーしたら、管理画面を再起動し、「ライセンス情報」ボタンを指定して、ライセンスが正しく設定されたことをご確認ください。

新しいライセンスが反映されるのは、ライセンスファイルをコピー後に管理画面を再起動したタイミングですので、ご注意ください。

ライセンス情報	
バージョン	PX-Web 1.0.0.0
システムID	F30OQCN49MXTD4W8GA
ライセンス種別	正規
ライセンス期限	なし
サポート契約	2014/5/31まで
同時ログイン数	3
ユーザ数	10

閉じる

## 4.4 サポート契約

新規に購入したライセンスには、初年度の年間サポートが含まれています。

2 年目以降のサポートへの加入は任意です。

サポートなしでも、ライセンス期限なしで ProcessX Web を使い続けることができます。

年間サポート加入により、以下のような特典が得られます。

- ・ 不具合等の調査依頼
- ・ ProcessX Web の最新版へのバージョンのアップデート

(注) サポート契約がない場合は、バージョンのアップデートはできません。

但し、同じバージョンの不具合等の対応を行ったリリースへのアップデートは可能です。

## 5 サーバの設定

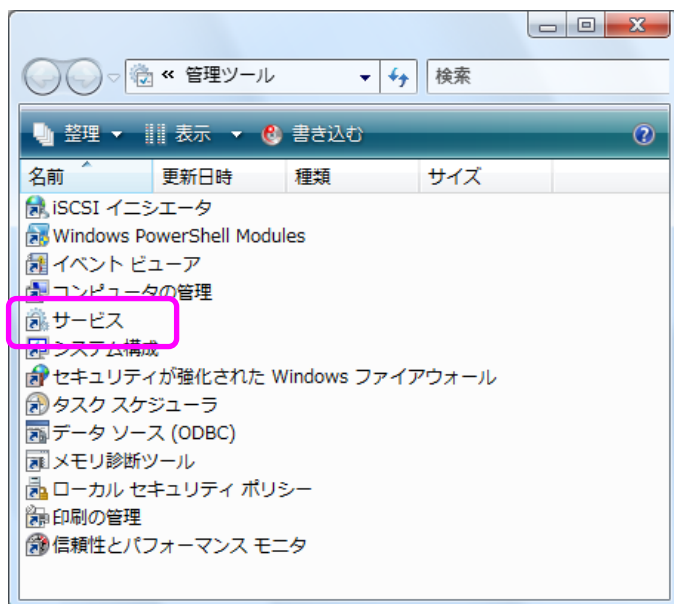
### 5.1 ProcessX Web 本体の設定

クライアント PC から ProcessX Web へログインして使用するためには、サーバ上で ProcessX Web 本体プログラムがサービス起動されている必要があります。

ProcessX Web を新規インストールすると、ProcessX Web 本体プログラムが自動的にサービス起動されるようにシステム設定を行います。

ここでは、手動による ProcessX Web 本体プログラムのサービスの確認・変更について記載します。  
なお、使用する OS のバージョンにより、画面や操作方法が異なる場合があります。

- (1) Windows OS のコントロールパネルから「管理ツール」を指定します。  
以下のような管理ツールフォルダが開きます。



- (2) 「サービス」をダブルクリックして起動します。

以下のようなダイアログが表示されます。

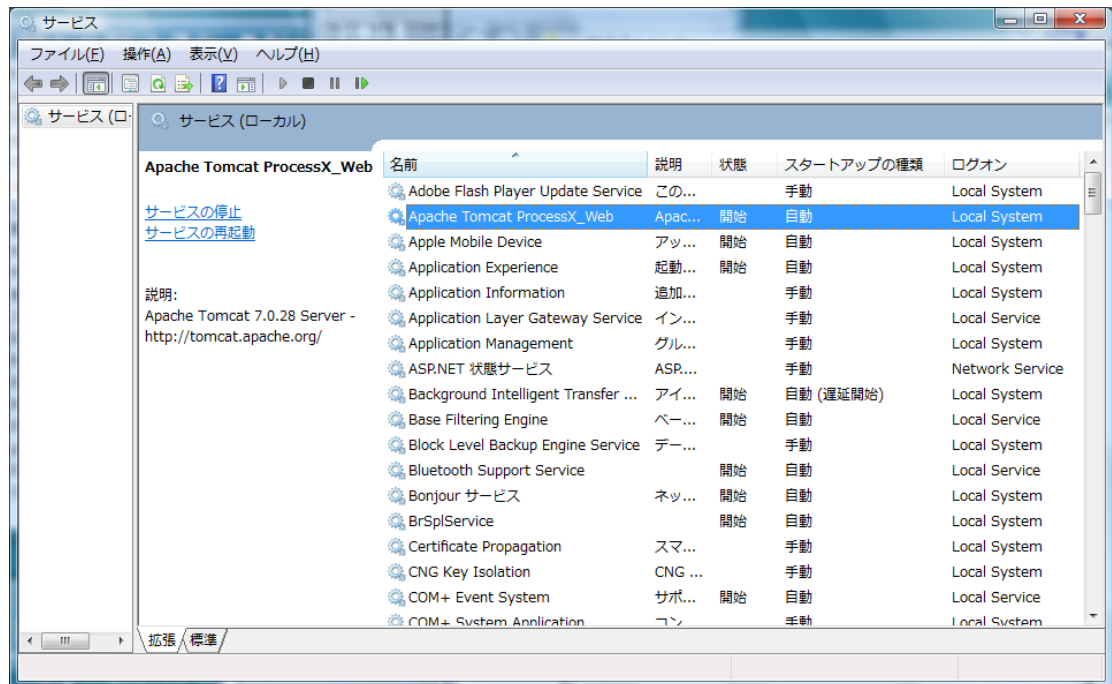
サービスの名前の一覧から

Apache Tomcat 8.0 ProcessX\_web

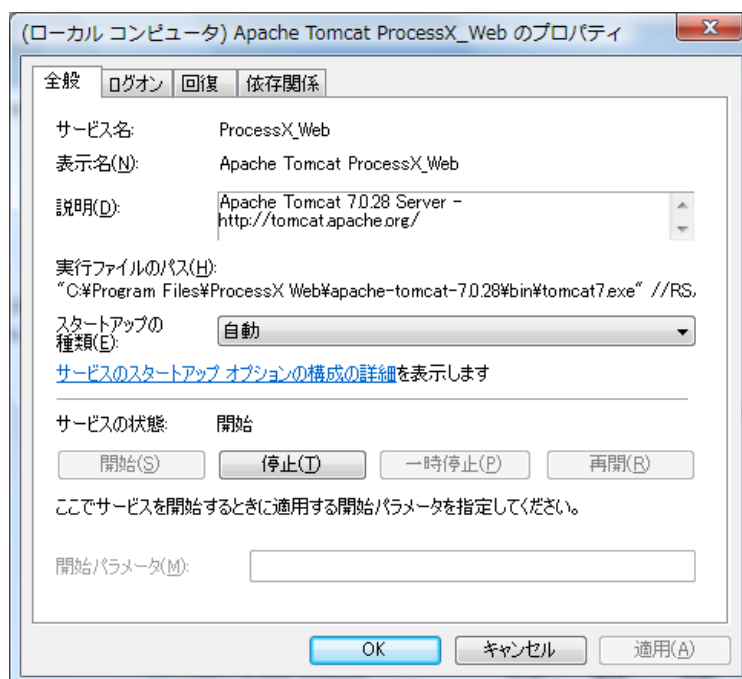
の行を特定します。(表示されるサービス名は、若干異なる可能性があります。)

以下のように表示されていれば、正常です。

サービスの状態 「開始」  
 スタートアップの種類 「自動」



- (3) ProcessX Web のサービスの状態を変更する必要があるときは、右クリックメニューで「プロパティ」を指定し、現れるプロパティダイアログで設定することができます。



- (4) ProcessX Web のサービス起動に失敗する場合は、

① ProcessX Web で必要とする Java 環境が正しくインストールされていない。



- ② ProcessX Web 本体が正しく構成されていない。

のいずれか原因が考えられます。

通常どおり動作していたのに、ある日、急にサービスが起動しなくなった場合は、Java に起因する場合が大半です。

次項の「5.2 Java アップデートの抑制」を参照して対処してください。

## 5.2 Java アップデートの抑制

Java は、頻繁にアップデートが自動配布され、アップデート時に以前のバージョンを自動的にアンインストールする場合があります。

一般的に WEB システムのサーバマシンは、Java のアップデートを抑制する設定を行います。

サーバマシンの Java 自動更新を抑制するには、以下の設定を行ってください。

- ① コントロールパネルから、Java のコントロールパネルを開く。
- ② アップデートタブを選択する。
- ③ 「アップデートを自動的にチェック」のチェックボックスをオフにする。
- ④ 警告ダイアログが表示されるので、「確認しない」をクリックする。
- ⑤ Java コントロールパネルの「了解」をクリックし、設定を保存する。

現在、サーバマシン内にインストールされている Java は、以下のようにして確認できます。

「コントロールパネル」→「プログラムと機能」

インストールされているプログラムリストに Java 製品が表示されます。

以下の Java がインストールされていることをご確認ください。

Java(TM) 8 Update 60



異なるバージョンの Java が混在していると、不安定な動作を引き起こす原因となります。

不要なバージョンの Java が入っている場合は、アンインストールすることを強く推奨します。

必要な Java 環境が欠損してサービス起動できない場合は、Java 環境の再構築を行うことで復旧することができます。

ProcessX Web のダウンロードサイトに、Java 環境再構築のためのインストーラが用意されていますので、ダウンロードして実行してください。

Java 環境の再構築を行ってもサービスが起動しない場合は、ProcessX Web の本体プログラムの更新を行ってください。

「7. ProcessX Web プログラムの更新」の項をご参照ください。

## 5.3 電源オプションの設定

特に、ノート PC やデスクトップ PC を ProcessX Web サーバとして使用する場合は、電源オプションの設定に注意する必要があります。

節電やセキュリティのために、一定時間 PC のコンソールを使用しないとき、コンピュータがスリープ状態になる設定がされている場合があります。

クライアント PC からアクセスしている途中でサーバがスリープすると、使用中のセッションが強制的に中断させられることになります。

ProcessX Web サーバとして使用するコンピュータは、スリープ状態に移行しない設定となっていることを確認して下さい。

コントロールパネルの「電源オプション」で設定することができます。

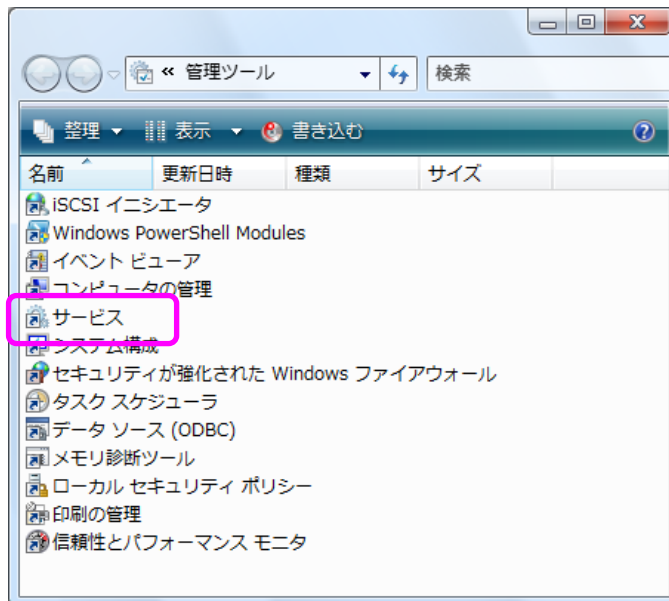
## 5.4 PostgreSQL の設定

クライアント PC から ProcessX Web へログインして使用するためには、サーバ上で ProcessX Web 用に構成された PostgreSQL がサービス起動されている必要があります。

ProcessX Web を新規インストールすると、PostgreSQL が ProcessX Web 用に構成されて自動的にサービス起動されるようにシステム設定を行います。

ここでは、手動による ProcessX Web 用の PostgreSQL のサービスの確認・変更について記載します。  
なお、使用する OS のバージョンにより、画面や操作方法が異なる場合があります。

- (1) Windows OS のコントロールパネルから「管理ツール」を指定します。  
以下のような管理ツールフォルダが開きます。



- (2) 「サービス」をダブルクリックして起動します。

以下のようなダイアログが表示されます。

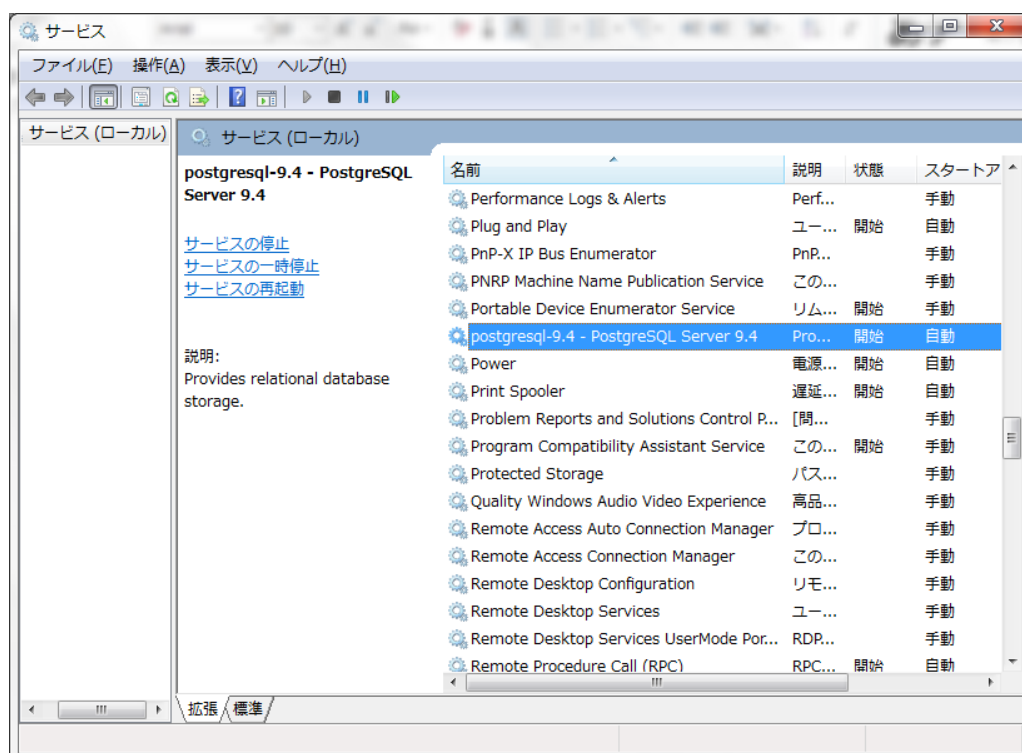
サービスの名前の一覧から

postgresql-9.4 - PostgreSQL Server 9.4

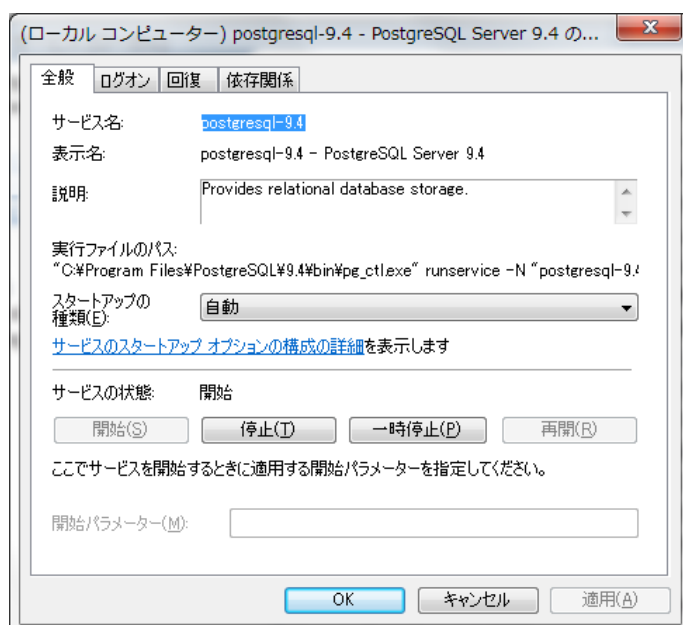
の行を特定します。(表示されるサービス名は、若干異なる可能性があります。)

以下のように表示されていれば、正常です。

サービスの状態 「開始」  
 スタートアップの種類 「自動」



- (3) ProcessX Web 用の PostgreSQL のサービスの状態を変更する必要があるときは、右クリックメニューで「プロパティ」を指定し、現れるプロパティダイアログで設定することができます。



- (4) プロジェクトのインポート／エクスポートの実行でエラーが発生する場合は、PostgreSQL のサービスでアクセス権限が不足している場合があります。

このような場合は、PostgreSQL サービスのログオンユーザを変更してください。

ProcessX Web 用の PostgreSQL サービスのプロパティを開き、「ログオン」タブを指定します。

ダイアログで、現在ログオンされているアカウントが確認できます。(以下のダイアログ図の例では「Network Service」のアカウントです。)

本マニュアルのインストール手順どおりに構成した場合は、「ローカルシステムアカウント」にチェックされています。

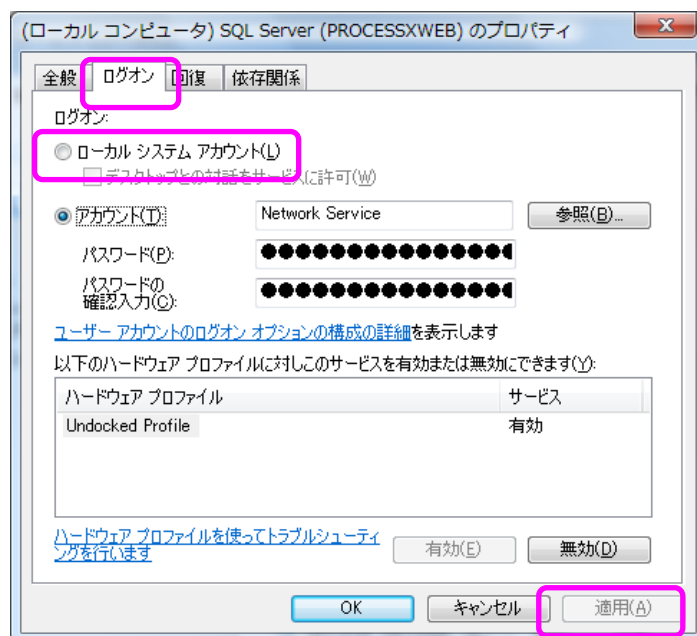
他のアカウントであっても、サービス起動はできますが、設定によっては PostgreSQL サービスのアクセス権限が不足している場合があります。

以下に、「ローカルシステム アカウント」に変更する場合と、その他の任意のアカウントに変更する場合について記載します。

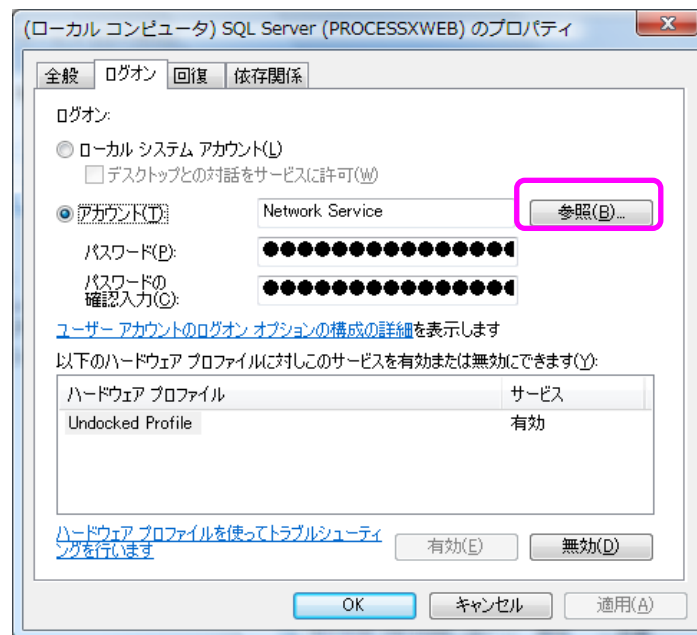
① 「ローカルシステム アカウント」に変更する場合

「ログオン」タブで、「ローカルシステム アカウント」を選択して「適用」ボタンを押します。

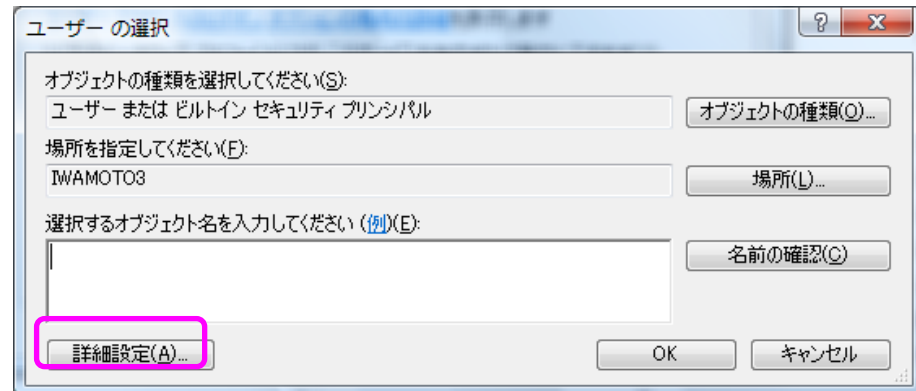
次に、「全般」タブに戻って、サービスの再起動(「停止」→「開始」)を行うことで、ログオンユーザを変更することができます。



- ② その他の任意のアカウントに変更する場合  
「ログオン」タブで、「参照」ボタンを押します。

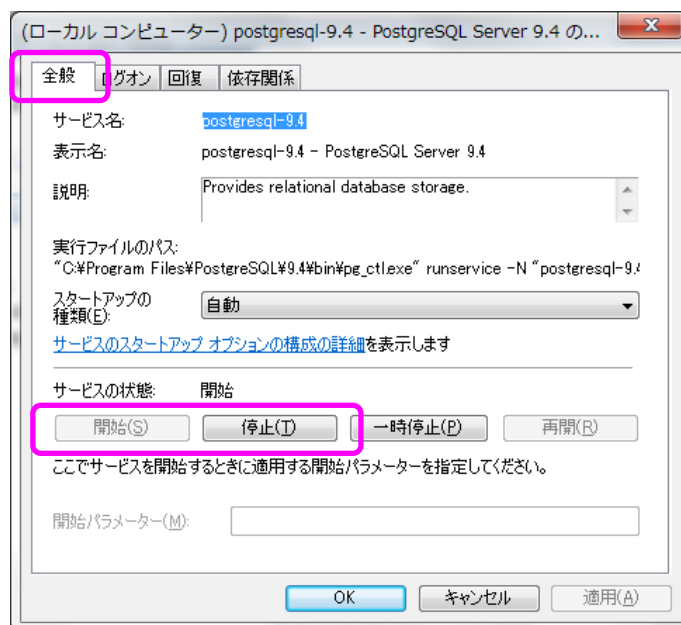
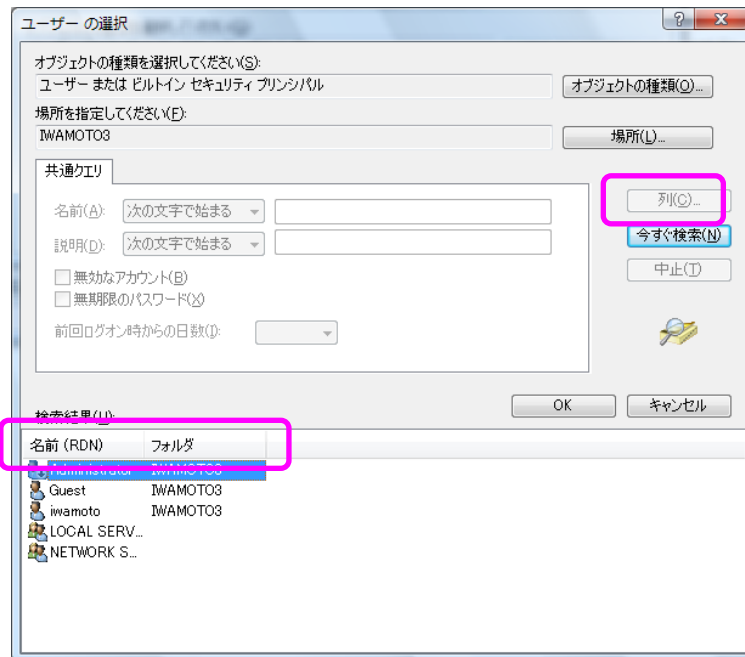


現れるユーザ選択ダイアログで、「詳細設定」ボタンを押します。



次に現れるダイアログで「今すぐ検索」ボタンを押して、設定するユーザを、より管理権限の強いものに変更します。

次に、「全般」タブに戻って、サービス再起動(「停止」→「開始」)を行うことで、ログオンユーザを変更することができます。



## 5.5 ファイアウォール設定

クライアント PC から ProcessX Web のサーバへ接続できるように、サーバの Windows OS のファイアウォールが設定されている必要があります。

なお、意図的にファイアウォールを起動していない場合は、本設定は不要ですので、スキップしてください。

また、特別なセキュリティソフトウェアを導入してファイアウォールを管理している場合は、そのソフトウェアの設定手順に従ってください。

### 5.5.1 ファイアウォールの新規設定

ProcessX Web を新規インストールしたときは、別冊の「インストール手順」に記載された内容を参照して設定してください。

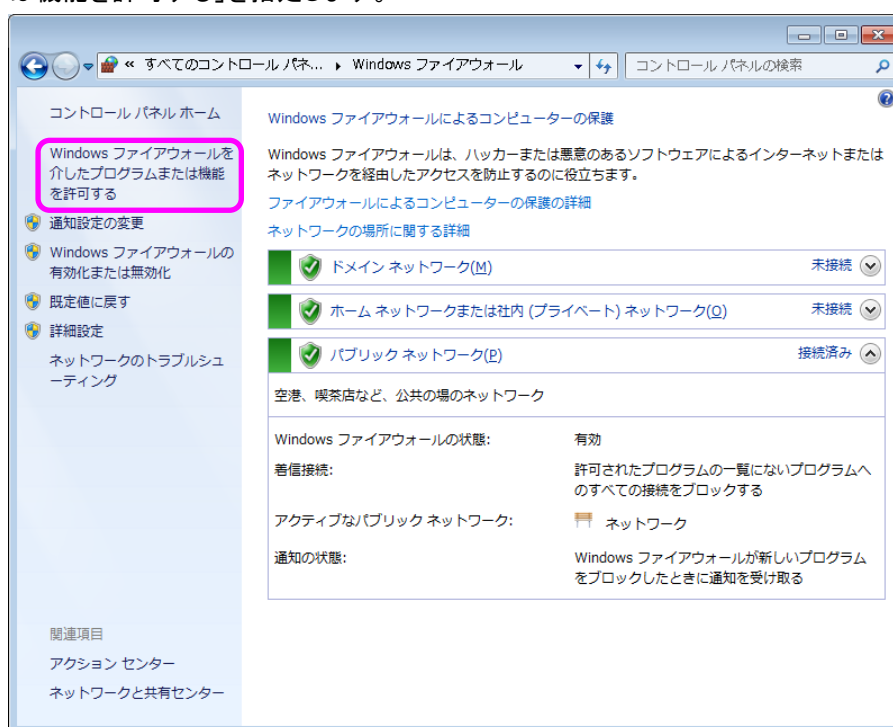
### 5.5.2 ファイアウォール設定の確認と変更

Windows OS のファイアウォールの確認と変更を行う手順を記載します。

なお、使用する OS のバージョンにより、画面や操作方法が異なる場合があります。

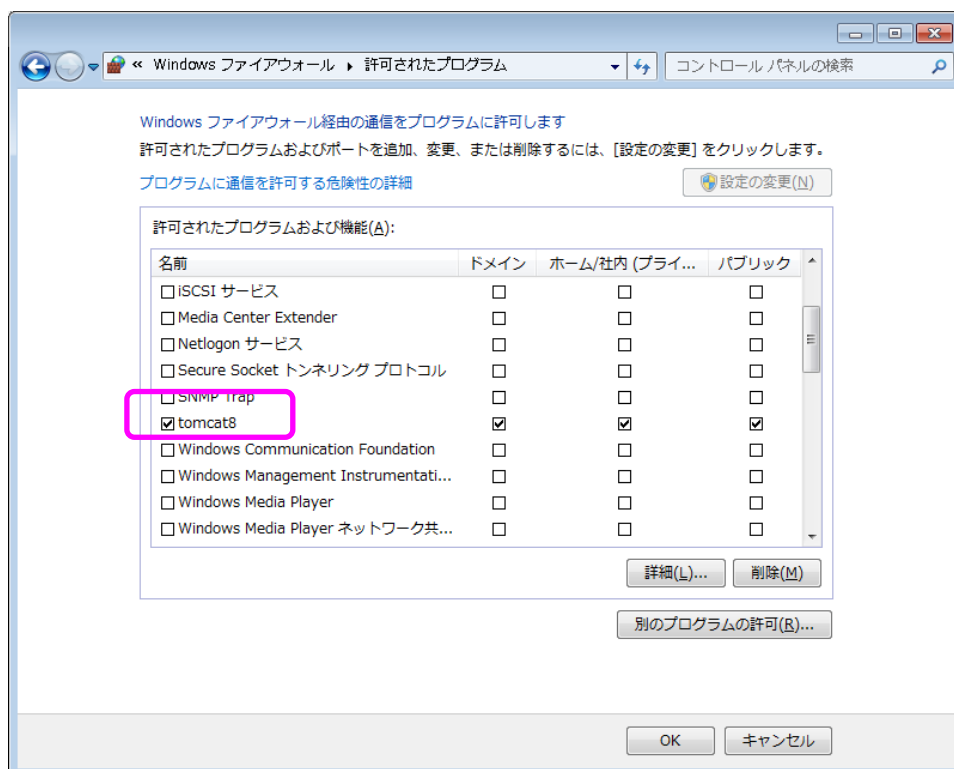
また、インストールされているセキュリティソフトによっては、Windows ファイアウォールが抑止され、セキュリティソフトのファイアウォールが有効になっている場合があります。

- (1) Windows OS のコントロールパネルから「Windows ファイアウォール」を呼び出します。  
「Windows ファイアウォール」ダイアログで、「Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する」を指定します。

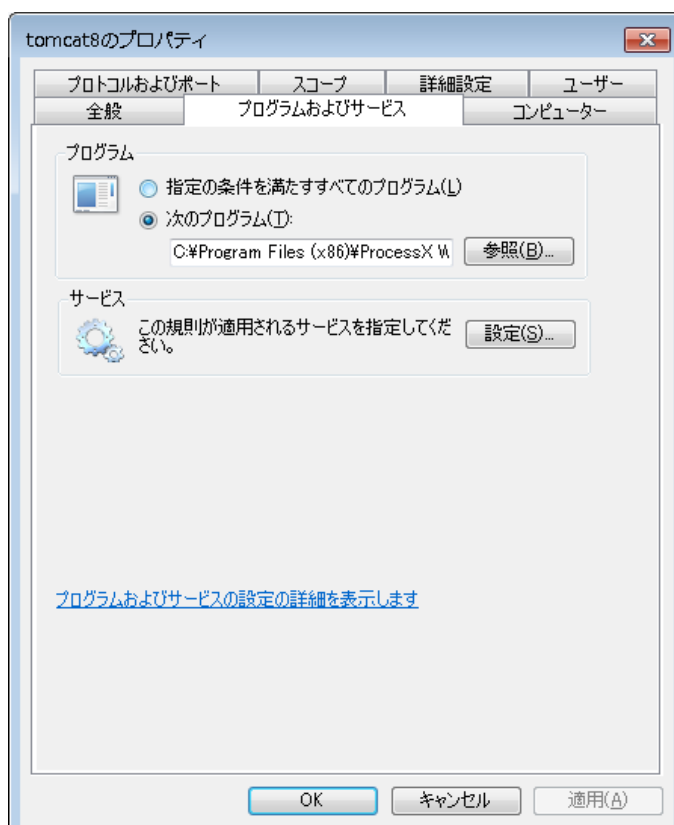




- (2) 許可されたプログラムおよび機能一覧に「tomcat8」という名前で、ファイアウォール設定されていることを確認します。



- (3) 「プロパティ」ボタンを押すと、この名前が ProcessX Web に対して設定されていることを確認することができます。



- (4) サーバマシン上でセキュリティソフトが動作している場合、セキュリティソフトのファイアウォール機能が意図しない遮断を行うことがあります。

「3.8 ユーザログイン URL の確認」で表示されるポート番号(80 のときは表示省略)の外部からの接続が遮断設定されている場合は、ログイン画面が表示されません。

セキュリティソフトのファイアウォール機能を OFF にして、状況が変化するかどうかご確認ください。

セキュリティソフトが影響している場合は、遮断設定を見直してください。

## 5.6 PostgreSQL のバックアップ

ProcessX Web のプロジェクトとして保持されるデータを保全するため、定期的に PostgreSQL のデータのバックアップを行うことを強く推奨します。

### 5.6.1 手動バックアップ

PostgreSQL のデータのバックアップを行うためには、pgAdmin III (管理ツール) を使用する方法が便利です。

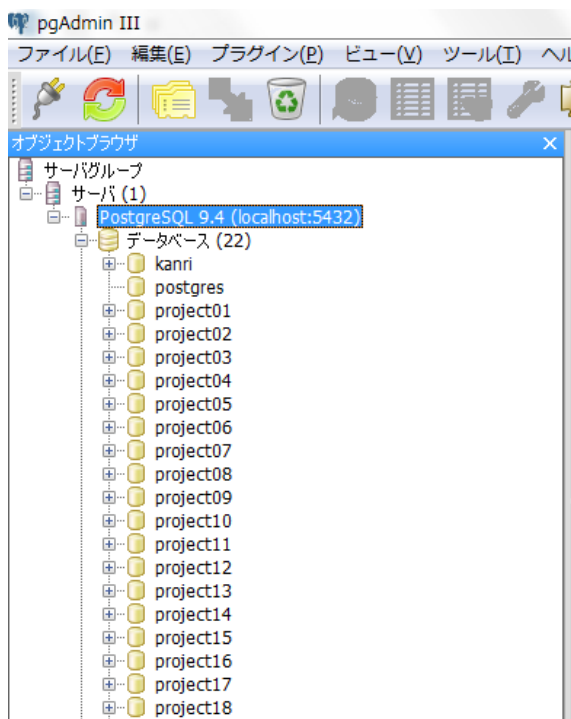
pgAdmin III は、PostgreSQL と併せてインストールされています。

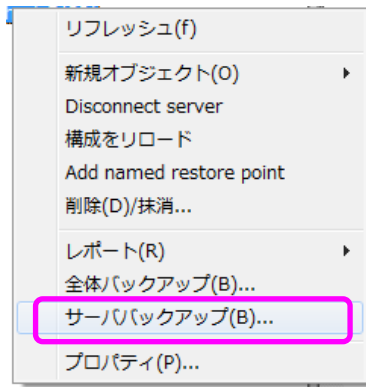
以下のように起動します。

「スタートメニュー」→「PostgreSQL 9.4」→「pgAdmin III」

ProcessX Web のデータのバックアップでは、kanri , project01～project 20 のデータベースを含むサーバを指定してバックアップを行ってください。

サーバ名を右クリックし、コンテキストメニューから「サーババックアップ」を選択して行います。





### 5.6.2 自動バックアップの設定

Windows のタスクスケジュール機能を使用して、毎日定刻に PostgreSQL 全体を自動でバックアップすることができます。

自動バックアップを実行するサンプルスクリプトが用意されているので、これを参考にして、使用している環境に合わせた設定をしてください。

- (1) 以下の作業は、全て、サーバの管理者権限のユーザが行ってください。

サンプルスクリプトは、インストールされた ProcessX Web のフォルダ

C:\Program Files (x86)\ProcessX Web\PxWebAdmin

または

C:\Program Files\ProcessX Web\PxWebAdmin

に、存在しています。

- (2) このフォルダ内の以下の 3 ファイル

PxWebBackup.bat

sendmail.vbs

DeleteOldBackup.ps1

を、ProcessX Web のフォルダ以外の場所にコピーしてください。(C:\ProcessX\_Backup など)

ProcessX Web のフォルダは、プログラム更新するときに置き換わる可能性がありますので、必ず別の場所にコピーして設定を行ってください。

- (3) 「PxWebBackup.bat」は、タスクスケジューラによって起動されるバッチコマンドです。

テキストエディタで開いて、自分の環境に合わせて修正してください。

- (4) 「sendmail.vbs」は、バックアップ結果を管理者にメール送信するスクリプトです。

「PxWebBackup.bat」の内部から呼ばれるので、不要な場合は呼び出しを削除してください。

テキストエディタで開いて、送信元メールアドレス、受信先メールアドレス、smtp サーバを指定します。

smtp 認証が必要な環境では、ポート番号、ユーザ名、パスワードを追加で設定する必要があります。

設定した「sendmail.vbs」をダブルクリックして、メールが送信されれば OK です。

- (5) バックアップ動作の確認のため、上記の「PxWebBackup.bat」を右クリックし、コンテキストメニューから「管理者の権限で実行」を指定します。

バックアップに成功すれば、指定したフォルダにバックアップファイルが作成されます。

バックアップに失敗した場合は、通知メールが送信されます。

- (6) 次に、このバックアップタスクを定刻に実行する設定を行います。

Windows のコントロールパネルで、「管理ツール」→「タスクスケジューラ」をダブルクリックして設定画面を開きます。

- (7) タスクスケジューラ画面で「基本タスクの作成」を選択し、設定を行います。

設定内容は、以下の設定例を参考にしてください。

タスクの名前	PxWebBackup
トリガー	毎日
開始	2:00
間隔	1 日
操作	プログラムの開始
プログラム	上記の「PxWebBackup.bat」を選択

- (8) 作成したタスクのプロパティで、以下を指定します。

ユーザがログインしているかどうかにかかわらず実行する  
最上位特権で実行する

- (9) バックアップに失敗する場合は、以下の項目をチェックしてください。

バックアップ先のフォルダが存在しているか  
PostgreSQL のサービスが起動しているか  
バックアップ先のディスクがオーバーフローしていないか

- (10) 「DeleteOldBackup.ps1」は、一定日数が経過したバックアップファイルを自動で削除するサンプルスクリプトです。

「PxWebBackup.bat」の内部から呼ばれるので、不要な場合は呼び出しを削除してください。

必要に応じて、使用している環境に合わせて設定を行ってください。

### 5.6.3 自動バックアップの復元

バックアップデータの復元は、現状の DB をリセットしてから実行するため、直前に保持していたデータは全て消失します。

十分に注意して実行してください。

また、バックアップを復元するデータベースのパスワードは、バックアップを行ったデータベースのパスワードと一致している必要があります。

- (1) 以下のフォルダ

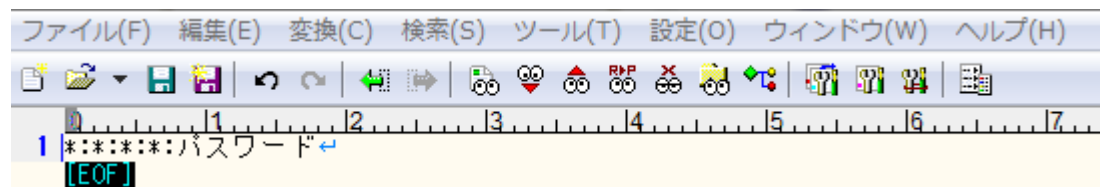
C:\Users\ユーザー名\AppData\Roaming\postgresql

にある「pgpass.conf」をテキストエディタで開きます。

- (2) 1 行目に以下の行を入力し、ファイルを上書き保存します。(全て半角英数文字)

「パスワード」の箇所には、インストール時に指定した DB のパスワードを記述します。

\*:\*:\*:\*:\*:パスワード



- (3) コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを入力します。

cd (bin フォルダのパス名)

psql -U postgres -f (復元するファイル名) postgres

ここで、(bin フォルダのパス名) は、以下となります。

64bitOS のとき C:\Program Files\PostgreSQL\9.4\bin

32bitOS のとき C:\Program Files (x86)\PostgreSQL\9.4\bin

また、(復元するファイル名) は、バックアップファイルを絶対パスで指定します。

## 6 ProcessX Web のアンインストール

ProcessX Web をサーバマシンからアンインストールする手順を記載します。

アンインストールは、ProcessX Web の全てのユーザがログアウトしている状態で実施してください。  
また、他のユーザやプログラムがサーバを使用していない状態で行ってください。

### 6.1.1 ProcessX Web 本体のアンインストール

#### (1) アンインストールの起動

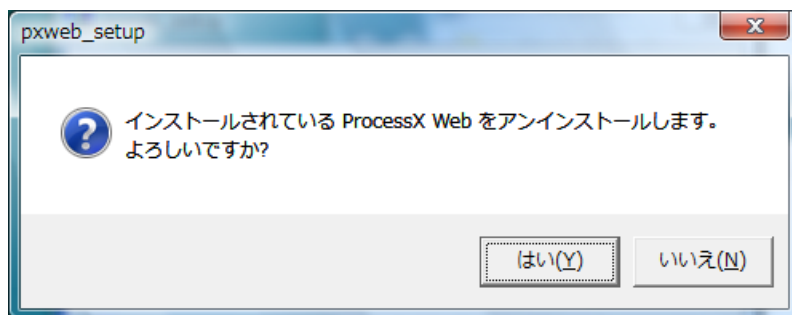
ProcessX Web 本体がインストールされているサーバ上で、  
「スタートメニュー」→「ProcessX Web」→「ProcessX Web のアンインストール」  
を指定してください。

以下のダイアログが現れるので、「ProcessX Web のアンインストール」が選択されていることを  
確認し、「次へ」ボタンを押してください。



#### (2) アンインストールの確認

以下のダイアログが現れ、アンインストールの確認を行います。  
アンインストールを実行するときは「はい」を指定してください。



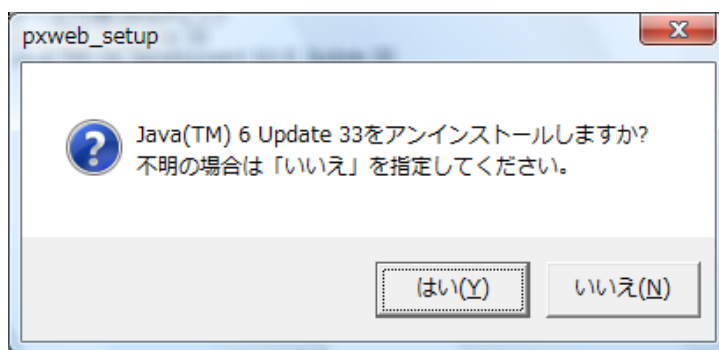
(3) Java 製品のアンインストールの確認

ProcessX Web のためにインストールした Java 製品の確認を行います。

削除すべき Java 製品が存在する場合は、以下の確認ダイアログが現れます。

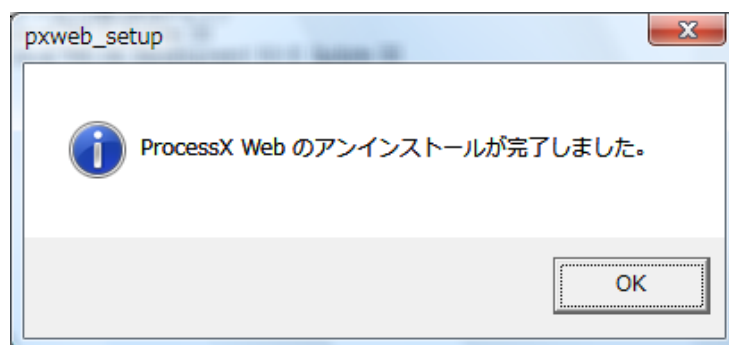
「はい」を押すと、対象の Java 製品をアンインストールします。

なお、この製品が他のプログラムで使われている可能性があるとき、または削除していいかどうか不明なときは、「いいえ」を指定してください。



(4) アンインストールの完了

以下のダイアログが現れ、ProcessX Web のアンインストールが完了します。



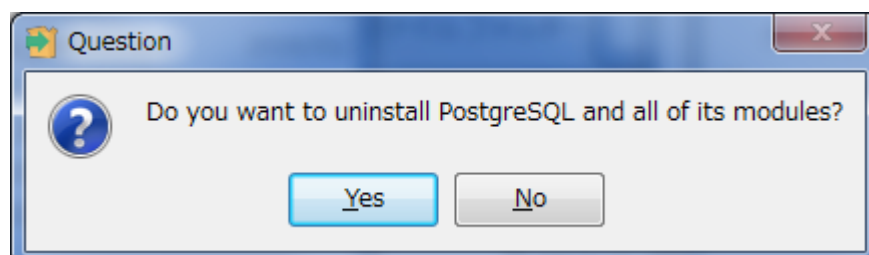
## 6.1.2 PostgreSQL のアンインストール

(1) アンインストーラの起動

Windows のコントロールパネルの「プログラムと機能」を開きます。

プログラム一覧リストから、「PostgreSQL 9.4」を指定します。

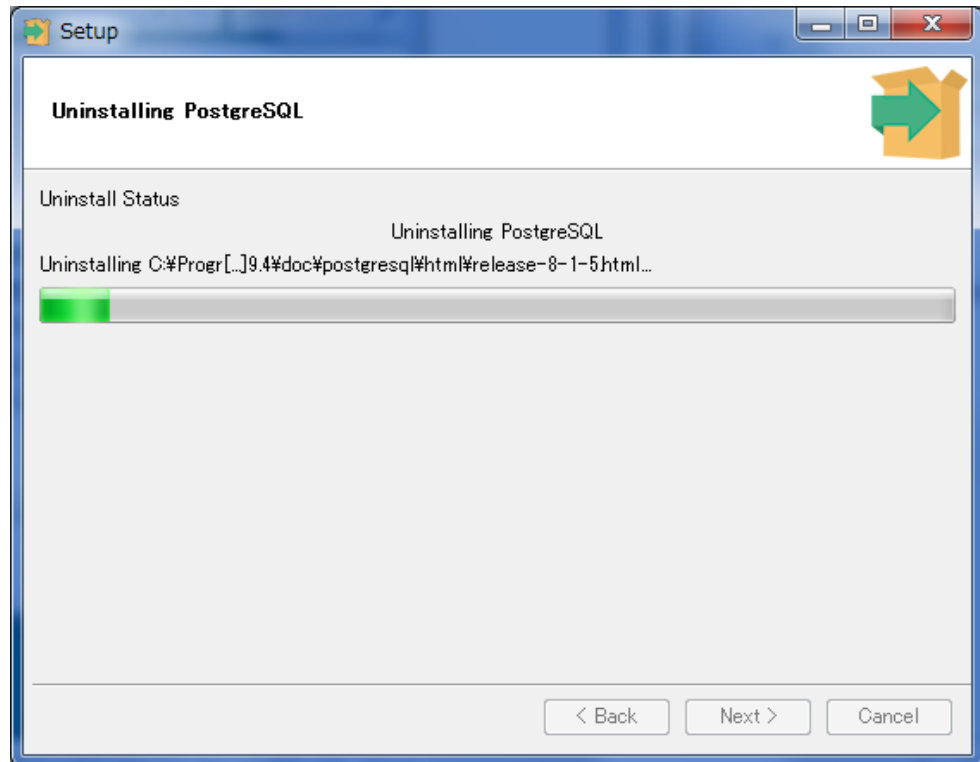
次の確認ダイアログで「YES」を指定します。





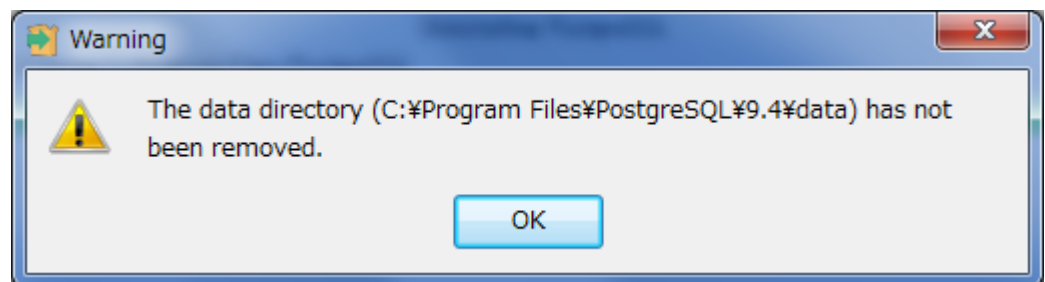
(2) アンインストールの実行

次のダイアログが出て、アンインストールが進行します。



(3) アンインストールの完了

アンインストールが完了すると、以下のダイアログで、データ領域が削除されていない旨を通知します。



データエリアを完全に削除するには、通知された data フォルダを削除してください。

他の用途で PostgreSQL を使用していないときは、以下のフォルダ全体を削除してください。

64bitOS のとき	C:\Program Files\PostgreSQL
32bitOS のとき	C:\Program Files (x86)\PostgreSQL

## 7 ProcessX Web のプログラムの更新

ProcessX Web は、機能追加や不具合修正のために、更新されたバージョンが提供されます。

使用中 ProcessX Web プログラムを更新するには、ProcessX Web のサイトから更新プログラムのインストールをダウンロードします。

更新インストールの詳細は、別冊の「更新インストール手順」をご参照ください。

## 8 困ったときには

### 8.1 ProcessX Web サーバ

#### 8.1.1 管理画面へログインできない

- (1) ある時点で急に管理画面へログインできなくなった場合は、データベースへアクセスできなくなっている可能性があります。  
「5.4 PostgreSQL の設定」の項を確認して、PostgreSQL のサービス状態をご確認ください。
- (2) サーバマシンのネットワーク(TCP/IP)が有効になっているかご確認ください。  
LAN ケーブルが接続されていない、または無線 LAN が確立されていない場合は、管理画面へのログインができません。  
サーバマシン単体で使用する場合でも、ネットワーク(TCP/IP)は有効の必要があります。
- (3) インストール時に入力した第 1 管理者の ID、パスワードでログインしてください。
- (4) 前項でもログインできない場合は、管理パスワードのリセットが必要です。  
弊社サポートへお問合せください。

#### 8.1.2 ライセンスが設定されない

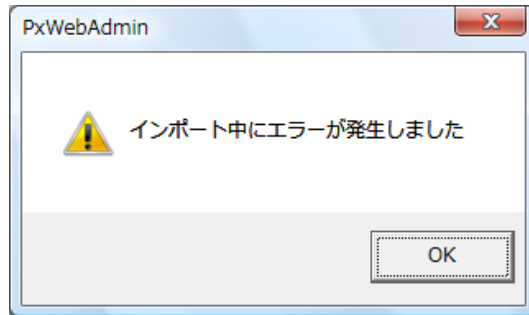
- (1) 無償ライセンスの場合は、ライセンス期限 3 ヶ月、ユーザ数 3、サポート契約なしに設定されています。  
ライセンス期限が切れた後も使い続ける場合、ユーザ数を追加したい場合は、ライセンスの購入をお願いいたします。  
詳細は、「4. ライセンス」の項をご参照ください。
- (2) 正規ライセンスの場合でも、契約形態によっては使用期限が設定されている場合があります。  
管理画面のライセンス情報で、ライセンスの詳細をご確認ください。
- (3) 正規ライセンスを取得し、ライセンスファイルをインストールしてもライセンス設定されない場合は、以下のいずれかの原因が考えられます。
  - ① ライセンスファイルのインストール場所が違っている。
  - ② ライセンスファイルが、そのサーバのシステム ID 用のものではない。
  - ③ ライセンスファイルのインストール後に、管理画面を再起動していない。

#### 8.1.3 登録ユーザ数が上限に達した

- (1) 登録できるユーザ数は、ライセンスにより規定されています。  
ユーザ数が足りない場合は、ライセンス購入してユーザ数を追加することをご検討ください。

#### 8.1.4 データのインポート／エクスポートでエラーが発生する

- (1) 「インポート」ボタンを押して、しばらくして以下のようなエラーダイアログが現れるときは、PostgreSQL サービスの、データベースアクセスの権限設定が不足している可能性があります。  
このような場合は、「5.4 PostgreSQL の設定」を参照して、サービスのログオンユーザを変更してください。



- (2) 環境設定が正しいのにインポートでエラーが発生する場合は、何らかの理由でデータベースのインポート領域を排他で占有できない状態の可能性があります。  
このような場合には、「5.4 PostgreSQL の設定」の項を参照して、PostgreSQL のサービスを再起動してください。
- (3) 新しいバージョンの管理画面でエクスポートされたデータを、古いバージョンの ProcessX Web サーバの管理画面でインポートしようすると、警告メッセージが表示されインポートできません。  
この場合は、古いバージョンの ProcessX Web サーバを最新版に更新してください。
- (4) 試用ライセンスでは、他の ProcessX Web サーバでエクスポートしたデータのインポートはできません。

#### 8.1.5 データのバックアップをとりたい

- (1) プロジェクト毎に、個別にバックアップをとる場合は、プロジェクトのエクスポート機能を使用してください。  
詳細は、「3.4 プロジェクト管理」の項をご参照ください。
- (2) データベース全体を定期的にバックアップしたい場合は、PostgreSQL のバックアップ機能を使用してください。  
詳細は、「5.6 PostgreSQL のバックアップ」の項をご参照ください。

#### 8.1.6 データを他の ProcessX Web サーバへ移動したい

- (1) 目的のプロジェクトをエクスポートした後、移動先のサーバの管理画面で、インポート機能を使用して取り込んでください。  
エクスポートのときは、「他の ProcessX Web サーバでもインポート可とする」オプションを指定する必要があります。  
詳細は、「3.4 プロジェクト管理」の項をご参照ください。  
なお、異なる ProcessX Web サーバ間でプロジェクトの移動を行う場合は、両方のサーバ共に、プログラム本体が最新の状態に更新されている必要があります。

#### 8.1.7 他のサーバからインポートしたプロジェクトのアクセスパターン

- (1) 他の ProcessX Web サーバで作成したプロジェクトをインポートした場合は、ユーザやグループの管理情報が異なるため、アクセスパターンを変更する必要があります。  
プロジェクト管理者は、アクセスパターンに設定されているユーザやグループの情報を、自プロジェク

トのメンバー情報に書き換えてください。

### 8.1.8 管理画面の起動のショートカットがほしい

- (1) 管理画面を頻繁に起動するため、ショートカットを作成したい場合は、以下の手順を実施してください。
  - ・ スタートメニューをクリックし、プログラム一覧から「ProcessX Web 管理画面」を右クリックします。
  - ・ 現れる右クリックメニューから「ショートカットの作成」を選びます。なお、OS のバージョンにより、「スタートメニューに表示する」、「タスクバーに表示する」など、右クリックメニューの表現や動作が異なる場合があります。

## 8.2 ProcessX Web クライアント

### 8.2.1 Web ブラウザでログイン画面が表示されない

- (1) サーバの ProcessX Web のサービスが起動しているかご確認ください。  
「5.1 ProcessX Web 本体の設定」の項をご参照ください。
- (2) サーバのファイアウォールの設定をご確認ください。  
「5.5 ファイアウォール設定」の項をご参照ください。
- (3) URL が正しいかどうかをご確認ください。  
再インストール等を行った場合、URL が変更になる場合があります。  
「3.8 ユーザログイン URL の確認」の項をご参照ください。

### 8.2.2 Web ブラウザのログイン画面でエラーが表示される

- (1) ProcessX Web の実行に必要な Java 環境が正しく設定されてない可能性があります。  
「5.1 ProcessX Web 本体の設定」の項を参照して、Java の設定をご確認ください。
- (2) [ESSR0007]S2Container は null あるいは空であってははいけません  
ProcessX Web 本体が正しく構成されていません。  
「7. ProcessX Web プログラムの更新」の項を参照して、ProcessX Web 本体を更新してください。

### 8.2.3 クライアント PC からログインできない

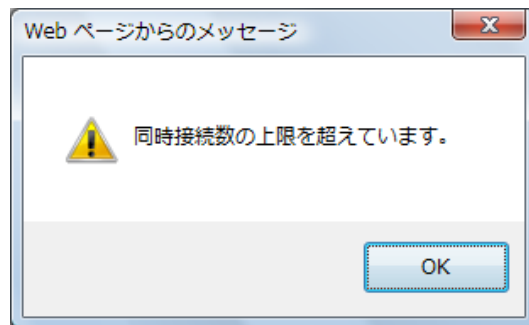
- (1) ログインユーザが登録され、有効になっているかご確認ください。
- (2) ログインユーザが参加できるプロジェクトが存在しているかご確認ください。
- (3) 既に同じユーザ ID でログインされている場合は、重複してログインすることはできません。

### 8.2.4 ログインできているようだが画面が表示されない

- (1) 使用している Web ブラウザが、システム要件に記載されている種類、バージョンに合致しているかご確認ください。
- (2) Web ブラウザのセキュリティレベルが強すぎる可能性があります。  
別冊の「簡単インストール手順」の「5. クライアント PC からのログイン」の項をご参照ください。

### 8.2.5 同時接続数が上限に達した

- (1) ログインして以下のメッセージが表示されるときは、ライセンスで設定されている同時接続数の上限に達したため、ログインできない状態です。



通常、ユーザ数と同時接続数は同数が設定されているため、この状態に陥ることはありません。

ユーザ数と同時接続数が異なるライセンスの場合に、発生することがあります。

この状態を回避するには、ライセンスの同時起動数を追加することをご検討ください。

- (2) ライセンスの同時接続数やセッション数に問題がないのにログインできない場合は、ProcessX Web の実行に必要な Java 環境が正しく設定されてない可能性があります。  
「5.1 ProcessX Web 本体の設定」の項を参照して、Java の設定をご確認ください。

### 8.2.6 ログインしたまま放置していたら、ログアウトして操作できなくなった

- (1) ログインしたまま、何も操作せずに Web ブラウザを放置していくと、60 分間を経過した時点で自動的にログアウトされます。  
再度、ログインすることで正常に使用することができます。

### 8.2.7 ProcessX Web 本体の更新を行ったら、操作できなくなった

- (1) Web ブラウザは、ダウンロードしたコンテンツをキャッシュに保存し、動作を効率化させます。  
ProcessX Web のプログラム更新をした直後は、キャッシュされたコンテンツとの間で不整合が生じて、予期しないエラーが発生する場合があります。  
このような場合は、別冊の更新インストール手順「1.4 Web ブラウザのキャッシュのクリア」の項を参照して、Web ブラウザのキャッシュをクリアしてください。

### 8.2.8 ジョブ一覧リストの表示件数が増えたら動作が重くなる

- (1) ジョブ一覧リストは、Web ブラウザの内部メモリを確保して、表示内容を保持します。  
ジョブ一覧リストの件数が増えると、動作が重くなる場合があります。  
特に、Windows Internet Explorer 11 では、表示するジョブ数が増えると、表示速度が極端に低下します。  
Web ブラウザのバージョンアップにより表示速度が改善される場合もありますが、ジョブ一覧リストの操作性を重視する場合、現状では、Windows Internet Explorer 11 以外のブラウザを推奨します。

## 8.2.9 Excel 帳票や Excel レポートを表示しようとするとエラーになる

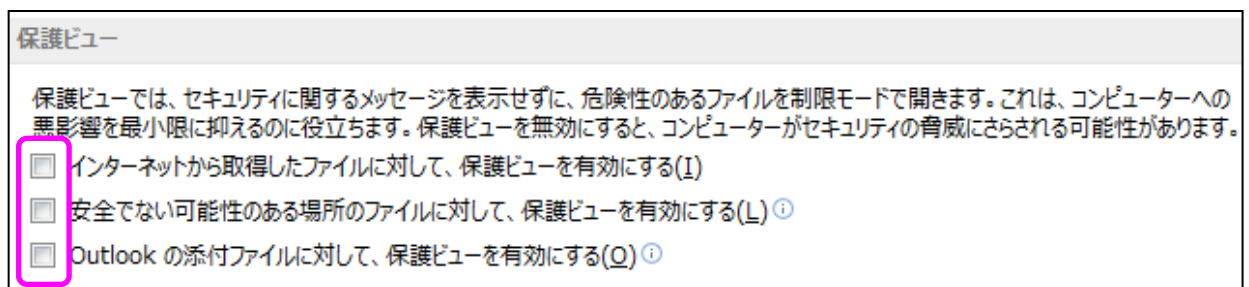
- (1) Excel 帳票や Excel レポートは、セルの参照機能やマクロを利用してデータの表示更新を行います。ネットから PC へダウンロードした Excel ファイルは、セキュリティの保護モードにより表示の更新がブロックされる場合があります。

Excel の設定変更により、この保護モードを回避することができます。

以下に手順を記載します。

なお、Excel のバージョンにより、メニュー構成等が異なる場合があります。

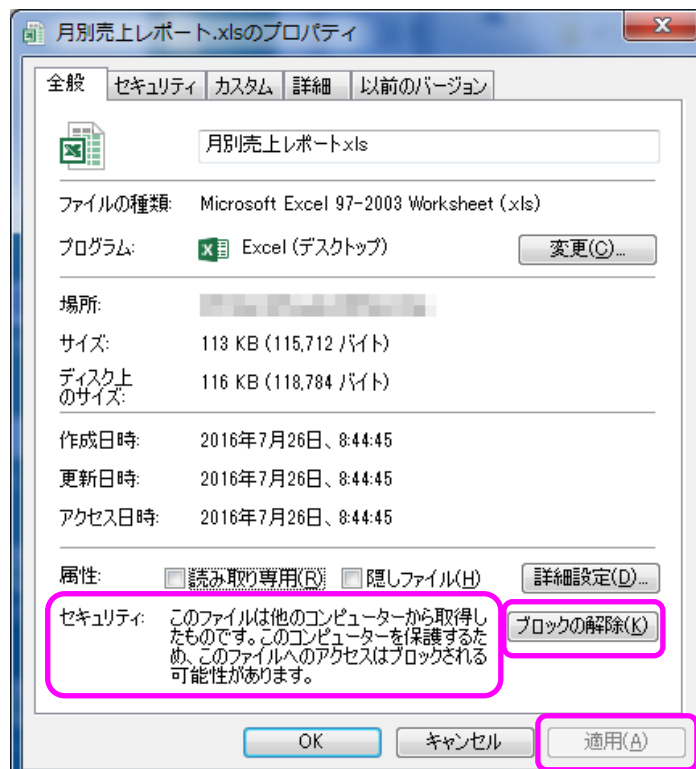
- ① Excel のメニューから、「ファイル」→「オプション」→「セキュリティセンター」を指定します。
- ② 「セキュリティセンターの設定」ボタン絵尾指定します。
- ③ 「保護ビュー」を選択します。
- ④ 保護対象のチェックを外して「OK」を押します。



- (2) ダウンロードして保存した Excel ファイルのプロパティを変更して、保護モードを解除することができます。

ダウンロードファイルを右クリックして、コンテキストメニューを呼び出します。

メニューから「プロパティ」を選択すると、次のダイアログが現れます。



ダイアログ下部の「セキュリティ」の欄に、

「このファイルは他のコンピュータから取得したものです。．．．．」

のメッセージが表示されているときは、右側の「ブロックの解除」ボタンを指定し、下側の「適用」ボタンを押してください。

この操作により、ダウンロードした Excel ファイルの保護モードが解除されます。